

2009 年度 計画の進捗状況報告 (案)

目 次

1. 河川水質の整理結果	1
1.1 印旛沼・流域河川の水質調査実施状況	1
(1) 千葉県による水質調査	1
(2) 市町村による水質調査	2
1.2 印旛沼・流入河川の水質変化	5
(1) 流入河川主要地点および印旛沼水質の経年変化	5
(2) 流域河川の水質分布の変化	7
2. 対策の進捗状況	10
2.1 進捗状況のとりまとめ	10
2.2 各対策の実施状況	11
(1) 雨水浸透マスの設置基数	11
(2) 透水性舗装の整備面積	13
(3) 貯留施設の整備貯留量	15
(4) 下水道普及率	16
(5) 高度処理型合併処理浄化槽利用人数	17
(6) ちばエコ農業による耕作面積及びエコファーマー認定件数	18
(7) 河道整備延長	19
(8) 親水拠点の整備箇所数	20
(9) 植生帯整備面積(延長)	21
(10) 水環境をテーマとした環境学習実施学校数	22
(11) WEB サイトいんばぬま情報広場のアクセス件数	23
3. 目標達成状況	24
3.1 目標達成状況とりまとめ	24
3.2 各目標に対する達成状況	25
(1) 水質	25
(2) アオコ	27
(3) 清澄性	28
(4) におい	29
(5) 水道に適した水質	30
(6) 利用者数	31
(7) 湧水	32
(8) 生き物	34
(9) 水害	37
4. 市町村みためしの報告	39

1.河川水質の整理結果

印旛沼流域内の河川で実施されている千葉県、流域市町村による水質調査データを収集し、整理した。さらに、水質の変化と汚濁負荷削減対策の実施状況と合わせて評価した。

1.1 印旛沼・流域河川の水質調査実施状況

(1) 千葉県による水質調査

公共用水域の水質測定として、現在千葉県が実施している印旛沼・流域内河川の水質調査地点・頻度は下表の通りである。

流入河川では、ほぼ年 12 回（月 1 回）、沼内では、年 24 回（月 2 回）の頻度で調査が行われている。

表 1.1 公共用水域水質測定における印旛沼流域内の河川水質調査地点

カテゴリ	河川名	No.	地点名	観測頻度
河川	鹿島川	A	岩富橋	4回/年
		B	鹿島橋	12回/年
	高崎川	C	竜灯橋	12回/年
	手繰川	D	無名橋	12回/年
	師戸川	E	師戸橋	12回/年
	神崎川	F	神崎橋	12回/年
	桑納川	G	桑納橋	12回/年
	新川	H	八千代橋	12回/年
	長門川	I	長門橋	12回/年
印旛沼		J	阿宗橋	24回/年
		K	上水道取水口下	24回/年
		L	一本松下	24回/年
		M	北印旛中央	24回/年

(2) 市町村による水質調査

2009 年度に市町村が印旛沼・流域内河川において実施した水質調査地点は下表の通りである。

表 1.2 (1) 市町村における水質調査地点

実施自治体	河川名	支川名	No.	地点名
千葉市	鹿島川	鹿島川	1	下大和田
			2	平川橋
			3	富田橋
			4	中田橋
			5	下泉橋
船橋市	神崎川	鈴身川	6	鈴身
		二重川	7	長殿橋
	桑納川	桑納川	8	金堀橋
成田市	江川	江川	9	江川台方橋
佐倉市	鹿島川	鹿島川	10	飯野竜神橋
			11	鹿島橋
			12	羽鳥橋
			13	旭橋(岩富橋)
			14	尾牛橋
		佐倉川	15	佐倉川
		小名木川	16	小名木川
		岩富川	17	岩富4号橋
	高崎川	弥富川	18	弥富川
		高崎川	19	境田橋
			20	高岡
			21	寺崎排水路
		高崎川	22	竜灯橋(元 寺崎橋)
		南部川	23	南部川
			24	高崎
		勝田川	25	城2号橋
			26	勝田川
			27	直弥
	手繰川	手繰川	28	印旛沼流入口
			29	無名橋(元 手繰橋)
			30	畔田橋
			31	上座橋
			32	下志津
		小竹川	33	子ノ橋
		井野川	34	井野川
	印旛中央排水路	中央排水路	35	中央排水路
	西印旛沼直接	西印旛沼直接	36	臼井田
八千代市	手繰川	小竹川	37	飯野
			38	昆沙谷津排水路
			39	天神橋
	神崎川	神崎川	40	神崎橋
			41	神崎川市境
	桑納川	桑納川	42	桑納橋
			43	桑納川落ち口
		石神川	44	(石神川)
		津金川	45	津金谷津排水路
		花輪川	46	花輪川
	新川	新川	47	宮内橋
			48	阿宗橋
			49	須久茂1号幹線
鎌ヶ谷市	神崎川	二重川	50	井草県営住宅際
四街道市	鹿島川	鹿島川	51	馬渡(鹿島川上流)
			52	亀崎(鹿島川下流)
		鹿島川支川	53	吉岡(鹿島川支流2)
			54	成山(鹿島川支流1)
		小名木川	55	鹿渡(小名木川上流)
			56	山梨(小名木川下流)
	手繰川	手繰川	57	緑が丘(手繰川上流)
			58	内黒田(手繰川下流)

表 1.2 (2) 市町村における水質調査地点

実施自治体	河川名	支川名	No.	地点名
八街市	鹿島川	岩富川	59	夕日丘
		弥富川	60	根古谷
			61	用草
			62	東吉田
			63	上砂
			64	大谷流
			65	勢田(四木)
	高崎川	高崎川	66	文違
			67	朝日
		南部川	68	真井原
		勝田川	69	榎戸落合
			70	榎戸宮下
			71	大関
印西市	神崎川	戸神川	72	大正橋
	師戸川	師戸川	73	武西橋
	将監川	将監川	74	草深
白井市	神崎川	神崎川	75	平岡213-19付近
		二重川	76	鎌倉橋
			77	所沢橋
富里市	江川	江川	78	長殿橋
	高崎川	高崎川	79	東関東道下
			80	高崎川A-1(文違)
			81	高崎川A-2(新橋)
			82	高崎川B-1(高野橋)
酒々井町	高崎川	高崎川	83	高崎川B-2(立沢橋)
			84	飯積
	印旛中央排水路	中央排水路	85	本佐倉
		中川	86	中平橋
			87	中川上流(上岩橋)
	江川	江川	88	中川下流
印旛村 (現 印西市)	師戸川	師戸川	89	江川上流(伊篠新田)
			90	江川下流(伊篠)
	北印旛沼直接	飛里橋落	91	造谷橋
	西印旛沼直接	岩戸集水路	92	寿橋
	北印旛沼直接	松虫川	93	かまの橋
			94	岩戸集水路
			95	岩戸五橋
			96	境田橋
本埜村 (現 印西市)	北印旛沼直接	中根落	97	舟戸二橋
		物木落	98	蓮見宅脇
			99	服部宅脇
			100	ごみ処分場排水路
		物木落	101	印旛沼機場
		幹線落	102	青木宅脇
		長門川直接	103	五区加瀬宅脇
		将監川	104	六区小林倉庫脇
		物木落	105	徳島宅脇
			106	物木橋
		飛里橋落	107	佐倉・印西 竜腹寺地先前
	長門川	長門川	108	埜原機場出口
	北印旛沼直接	北印旛沼直接	109	印旛沼
		飛里橋落	110	古手商店脇
		北印旛沼直接	111	森公園前(排水路)
	将監川	将監川	112	将監川本埜共進脇
	長門川	長門川	113	長門川酒直水門

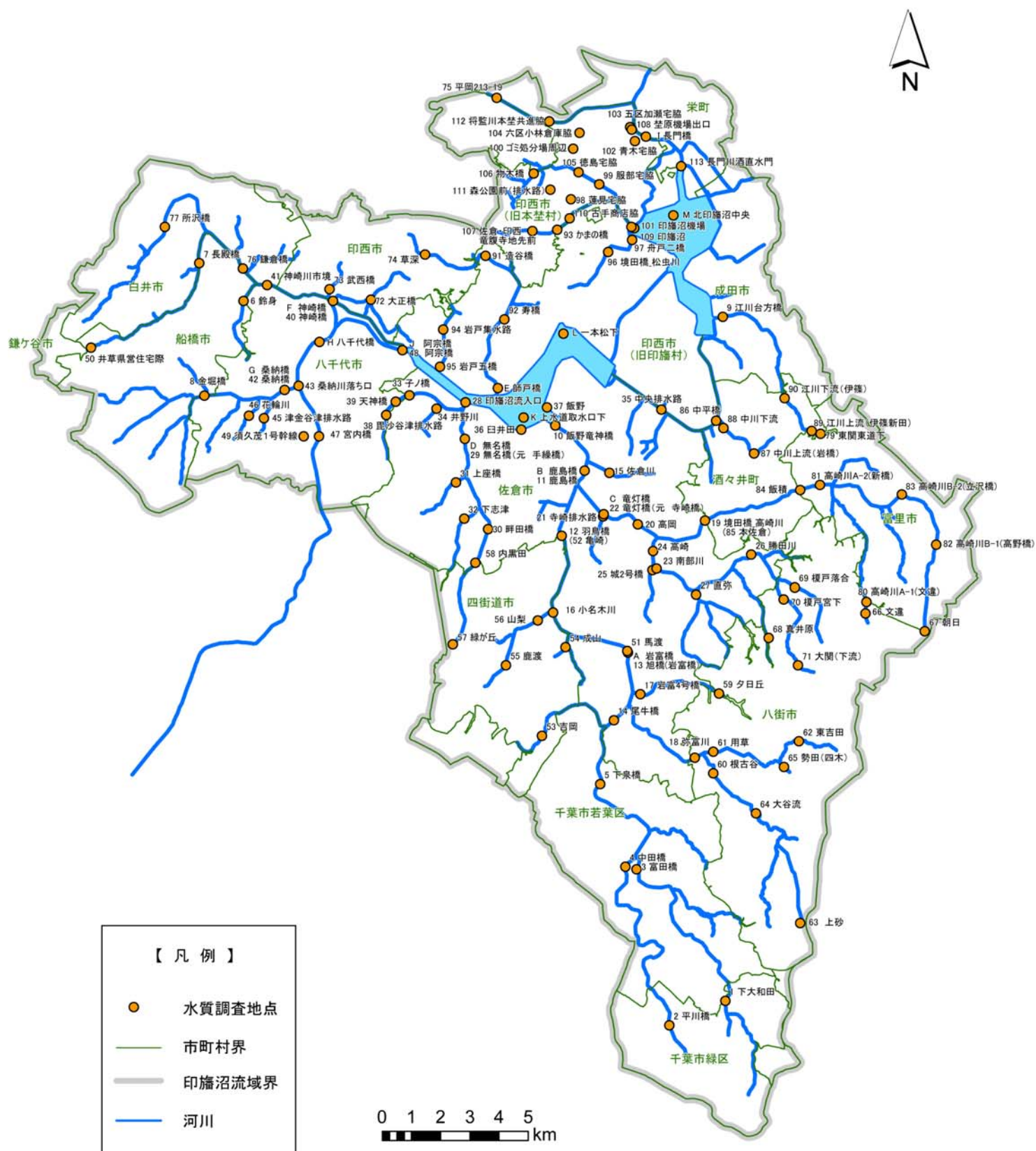


図 1.1 千葉県及び市町村における水質調査地点

1.2 印旛沼・流入河川の水質変化

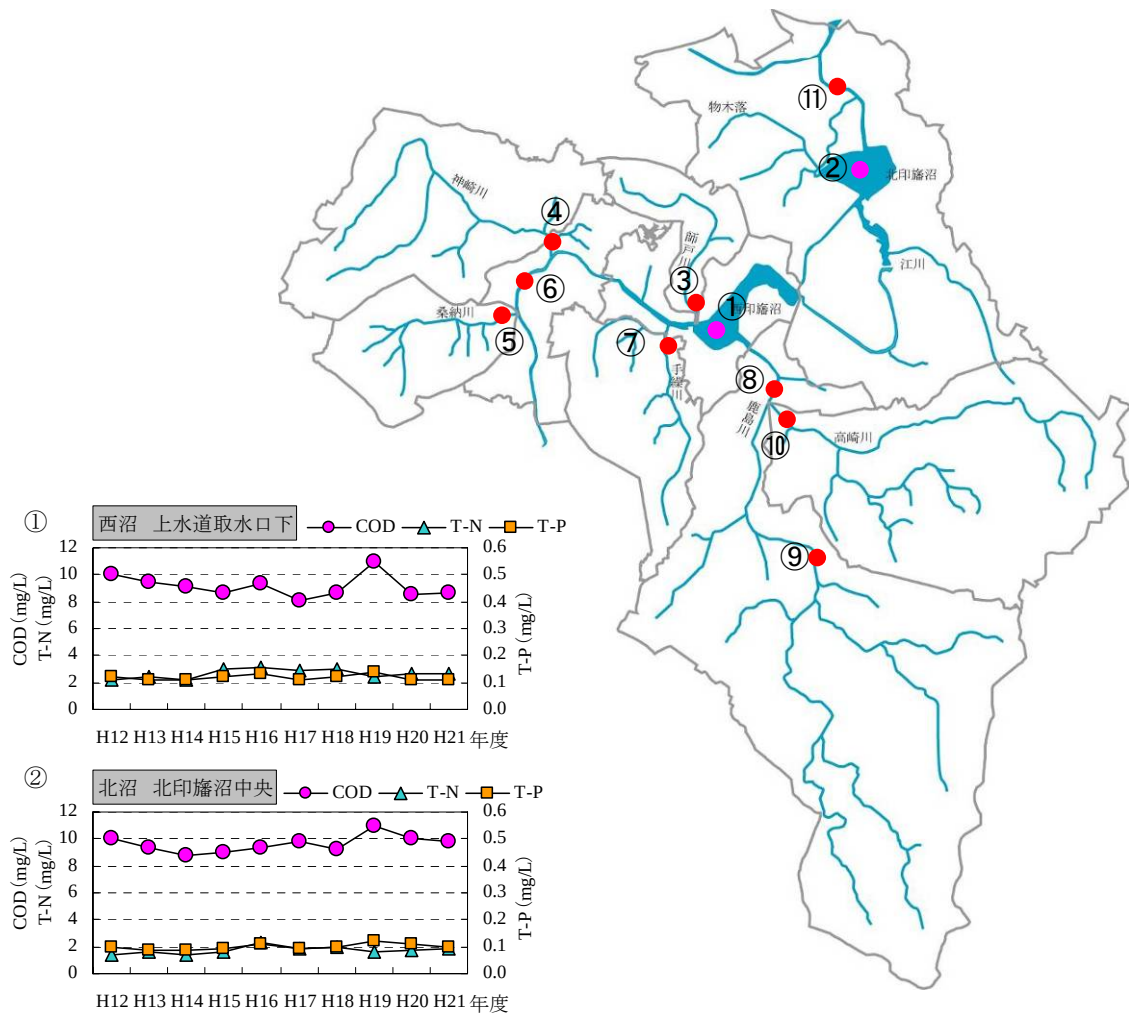
(1) 流入河川主要地点および印旛沼水質の経年変化

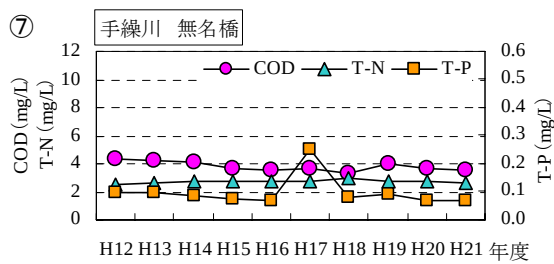
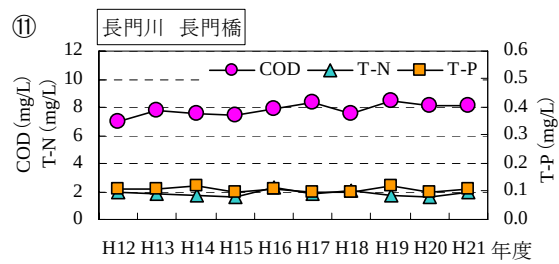
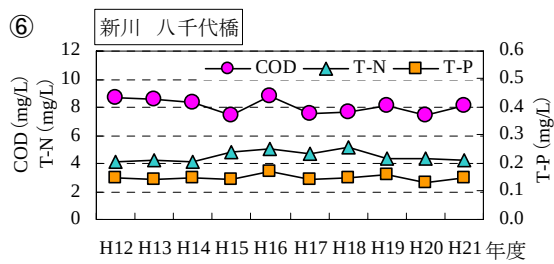
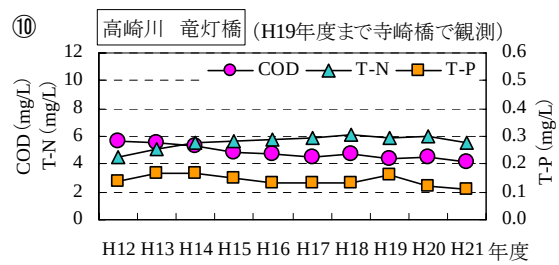
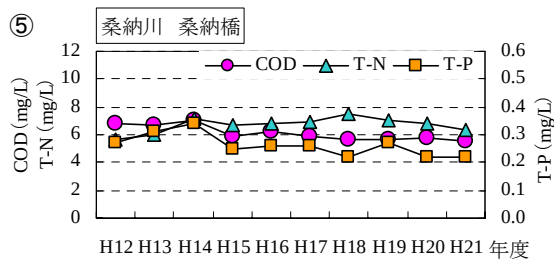
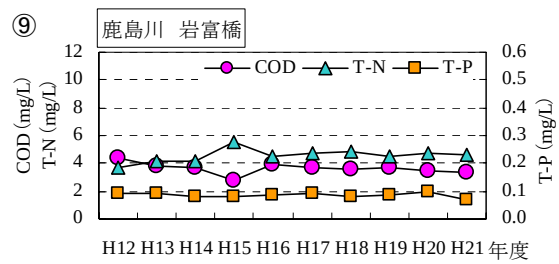
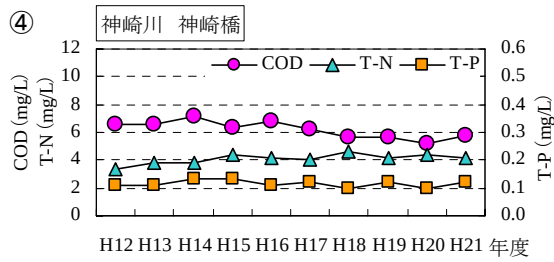
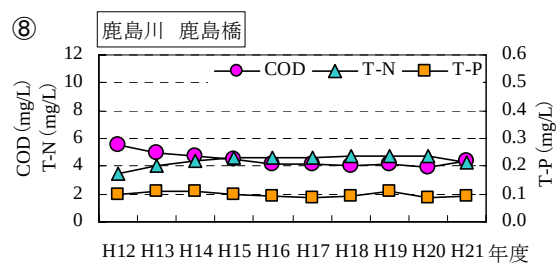
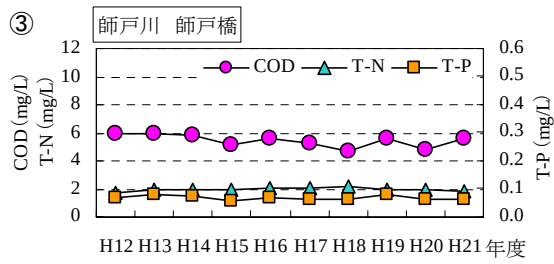
【流入河川】 (③～⑪)

- ・ COD については、高崎川、桑納川で低下傾向が見られる。
- ・ T-N については、鹿島川、高崎川、神崎川で上昇傾向が見られたが、近年は横ばいである。
- ・ T-P については、全体的に横ばいで、桑納川については低下していたが近年は横ばいの状態である。

【印旛沼】 (①～②)

- ・ 西沼、北沼ともに、COD、T-N、T-P 濃度は平成 19 年度を除くと、近年大きな変化はなく、ほぼ横ばいで推移している。





※COD、T-N、T-P いずれも年平均値である。

(2) 流域河川の水質分布の変化

1) COD

- ・ 平成 14 年度時点では濃度が高かった高崎川上流や桑納川等で改善が見られている。
- ・ 桑納川流域については、本川・支川ともに COD が低下している地点が多くみられる。排出負荷量の変化をみると、生活系が大きく減少していることから、下水道整備や浄化槽の普及による効果だと考えられる。

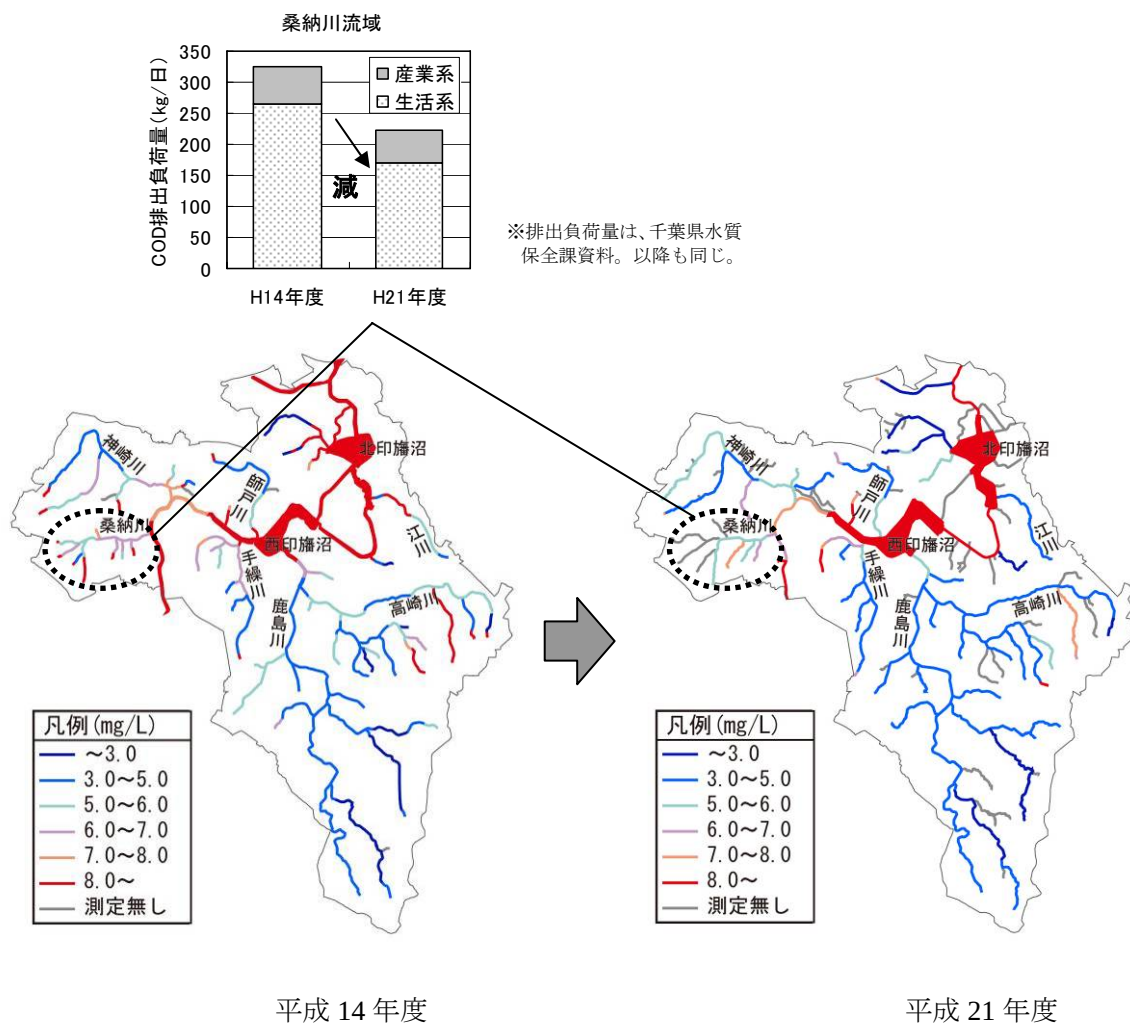


図 1.2 河川水質 COD 年平均値の変化と排出負荷量の比較
(一部の地点で BOD の値を使用)

2) T-N

- 平成 14 年度と比べて、T-N 濃度は流域全体的に変わらない。
- 鹿島川を例に見てみると、T-N 濃度はほぼ横ばいであるが、点源系の排出負荷量は減少している。このことから、点源系以外の負荷量、例えば畑等の面源負荷の影響があることが考えられる。

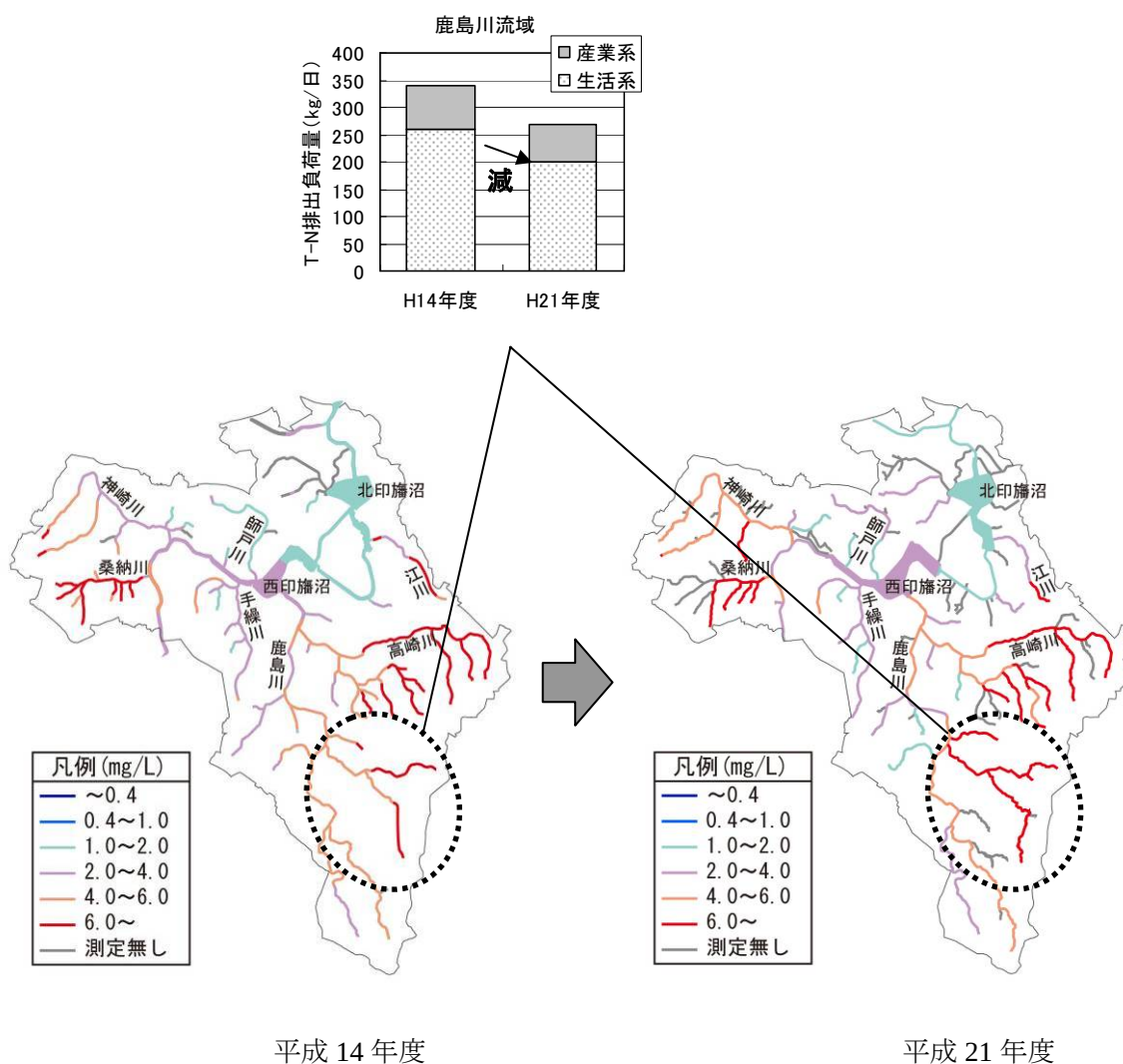


図 1.3 河川水質 T-N 年平均値の変化と排出負荷量の比較

3) T-P

- 平成 14 年度と比べて、T-P 濃度は流域全体的に変わらない。
- 神崎川を例に見てみると、T-P 濃度も排出負荷量もほぼ横ばいの状態である。

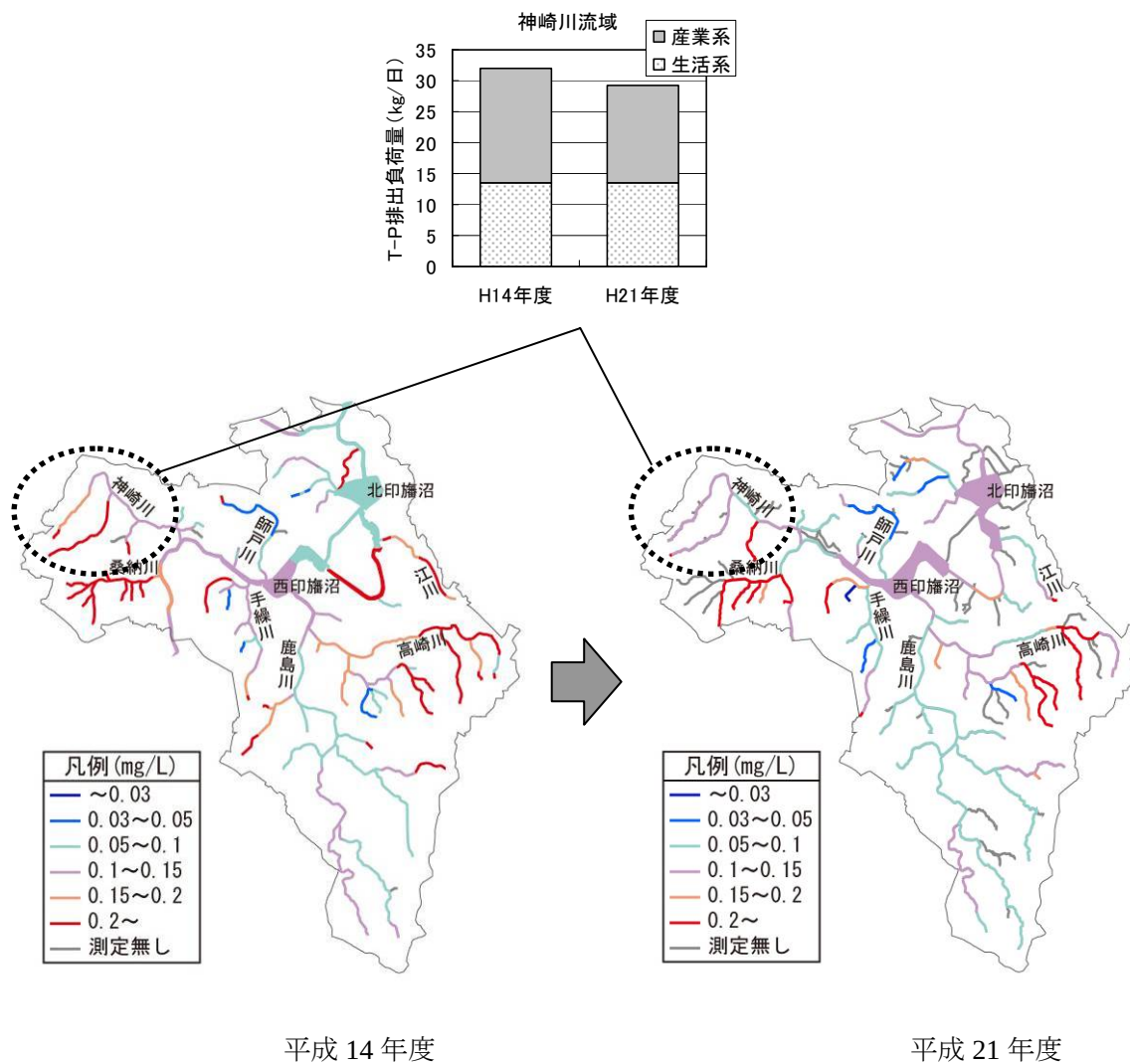


図 1.4 河川水質 T-P 年平均値の変化と排出負荷量の比較

2.対策の進捗状況

2.1 進捗状況のとりまとめ

- ・ 雨水地下浸透対策、下水道整備、植生帯の整備および WEB サイト「いんばぬま情報広場」のアクセス数についてはほぼ目標通りの進捗である。
- ・ 河道整備については目標を上回る実施量となっている。
- ・ 透水性舗装の整備、高度処理型合併浄化槽の設置については、目標を下回る進捗となっている。

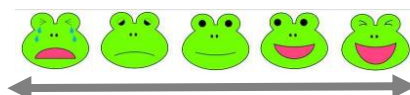
重点対策群	取り組み指標	現状 (2008年)	第一期行動計画 (2009～2015年度: 7ヶ年)	2009年実績	進捗割合			評価
					0%	14%	100%	
①雨水を地下に浸透させます	1 雨水浸透マスの設置基数	約1.2万基/年	8.4万基増	1.0万基増	12%			
	2 透水性舗装の整備面積	約5万m2/年	35万m2増	3.0万m2増	9%			
	3 貯留施設の整備貯留量	約2万m3/年	14万m3増	1.7万m3増	12%			
②家庭から出る水の汚れを減らします	1 下水道普及率	76%	84%	77%	15%			
	2 高度処理型合併浄化槽利用人数	対象人口の約3% (約5,000人)	約17%	4%	6%			
③環境に優しい農業を推進します	1 ちばエコ農業による耕作面積	644ha	増加	655.2ha	増加			
	2 エコファーマー認定件数	407件	増加	539件	増加			
④湧水と谷津・里山を保全・再生し、ふるさとの生き物を育みます	1 特定外来生物の駆除	侵入・拡大	侵入・拡大させない	カミツキガメ駆除216頭	駆除を実施			
⑤水害から街や交通機関を守ります	1 河道整備延長	約4,800m	約11,450m (約6,650m増)	1,224m増	18%			
⑥親しみのある水辺を創造します	1 親水拠点の整備箇所数	0箇所	1箇所以上	親水系にて検討中	検討中			
⑦かつてあった水草を再生します	1 植生帯整備面積(延長)	約760m	8,000m	1399m	9%			
⑧環境学習、流域市民の自主的な行動を活発にします	1 水環境をテーマとした環境学習実施学校数	延べ8校 (モデル校として実施)	増加	54校	増加			
	2 WEBサイトいんばぬま情報広場のアクセス数	約800アクセス/月	2,000アクセス/月	967アクセス/月	14%			

図 2.1 対策進捗状況

※100%になると第1期行動計画での目標値を達成。

(評価の凡例)

- ・ まだまだ達成できていない
- ・ 一層の取り組み努力が必要



- ・ 達成できている
- ・ 着実に進んでいる

2.2 各対策の実施状況

健全化計画で取り組み指標として具体的な対策量を掲げている 13 種類の取り組みについて、2009 年度の実施量と目標量を比較しました。

※第 1 期行動計画での実施量（2009～2015 年度の 7 カ年分）を単純に 7 で割って算出した値を単年当たりの対策量としています。

(1) 雨水浸透マスの設置基数

- ・ 第 1 期行動計画の計画期間 7 ヶ年のうち 1 年が経過した（1/7＝14％）が、手繰川、神崎川、師戸川の 3 流域で 14％を超えた進捗となっている。一方で、桑納川流域では 2％の進捗にとどまっている。
- ・ 流域全体では 12％の進捗となっており、ほぼ予定通りの進捗となっている。
- ・ 設置指導や仕組みの検討だけでなく、浸透マスは設置して年数が経過すると、マス内に落ち葉や砂等がたまり目詰まりして浸透機能が損なわれる可能性があることから、清掃等の維持管理も啓発する必要がある。

表 2.1 雨水浸透マス設置基数(前年からの増加量)

流域	第1期行動計画 目標値		第1期行動計画期間(年度)							
	2015年まで	年当たり	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	合計
	(基)	(基/年)	(基)	(基)	(基)	(基)	(基)	(基)	(基)	(基)
鹿島川流域	23,000	3,286	2,400							2,400
高崎川流域	14,000	2,000	1,149							1,149
手繰川流域	8,000	1,143	1,677							1,677
神崎川流域	11,000	1,572	2,272							2,272
新川流域	3,000	429	384							384
桑納川流域	6,000	858	123							123
師戸川流域	2,000	286	460							460
西印旛沼直接流入流域	3,000	429	450							450
北印旛沼直接流入流域	14,000	2,000	885							885
流域全体	84,000	12,003	9,801							9,801

市町	2009 (基)	2010 (基)	2011 (基)	2012 (基)	2013 (基)	2014 (基)	2015 (基)	合計 (基)
千葉市 ※2	563							563
船橋市	444							444
成田市 ※2 ※3	96							96
佐倉市 ※2 ※3	2,419							2,419
八千代市	131							131
鎌ヶ谷市	6							6
四街道市 ※2 ※3	1,627							1,627
八街市 ※2 ※3	570							570
印西市 ※2 ※3	2,107							2,107
白井市 ※2 ※3	1,173							1,173
富里市	418							418
酒々井町	96							96
栄町	152							152

※1 四捨五入の都合上、合計値と流域全体の値が異なる場合がある。

※2 実際の設置基数が把握できないため、「建築確認申請件数」×「1 件当たりの雨水浸透マス設置基数」から算出している。

※3 市全体の数での調査結果であったため、流域人口比で推定した。

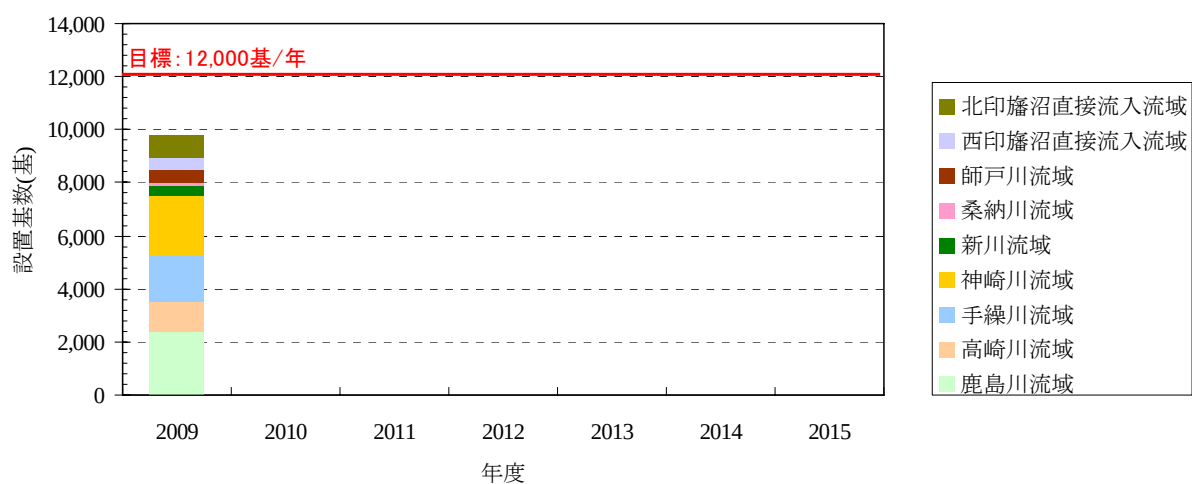


図 2.2 雨水浸透マス設置基数の推移

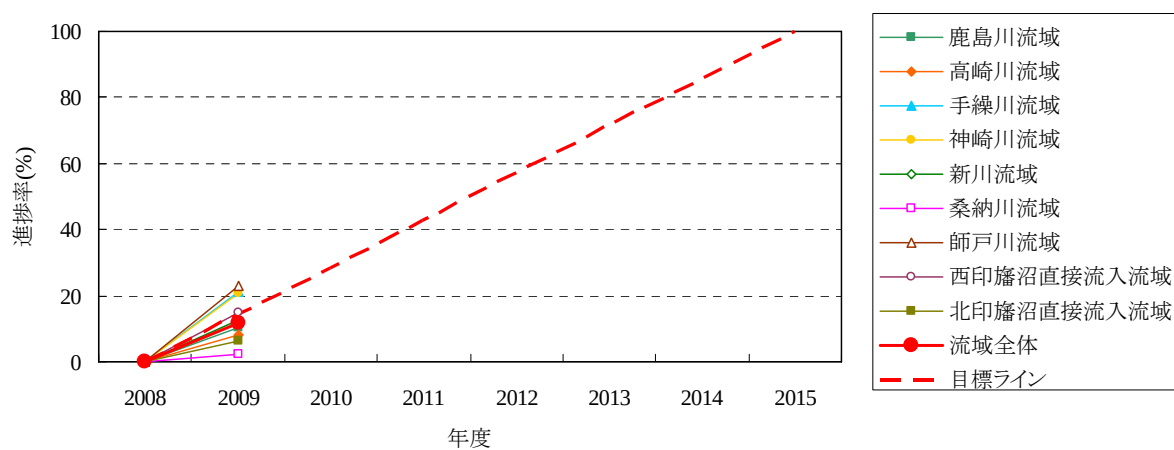


図 2.3 雨水浸透マス設置の進捗率

(2) 透水性舗装の整備面積

- 第1期行動計画の計画期間7ヶ年のうち1年が経過した(1/7=14%)が、高崎川、桑納川、北印旛沼直接の3流域で14%を超えた進捗となっている。一方で、手繰川、新川、師戸川流域では進捗はなかった(0%)。
- 流域全体では9%の進捗となっており、やや遅れた進捗となっている。
- 路面排水によって地下水を汚染させないため、基本的に透水性舗装は歩道に整備されているが、車道の方が面積が大きいことから、地下水汚染を生じさせない車道での浸透技術の開発が望まれる。

表 2.2 透水性舗装の整備面積(前年からの増加量)

	第1期行動計画 目標値		第1期行動計画期間(年度)							
	2015年まで (m ²)	年当たり (m ² /年)	2009 (m ²)	2010 (m ²)	2011 (m ²)	2012 (m ²)	2013 (m ²)	2014 (m ²)	2015 (m ²)	合計 (m ²)
鹿島川流域	92,000	13,143	3,993							3,993
高崎川流域	53,000	7,572	8,824							8,824
手繰川流域	28,000	4,000	0							0
神崎川流域	50,000	7,143	1,266							1,266
新川流域	15,000	2,143	0							0
桑納川流域	18,000	2,572	3,001							3,001
師戸川流域	9,000	1,286	0							0
西印旛沼直接流入流域	14,000	2,000	150							150
北印旛沼直接流入流域	72,000	10,286	13,261							13,261
流域全体	351,000	50,145	30,495							30,495

注) 四捨五入の都合上、合計値と流域全体の値が異なる場合がある。

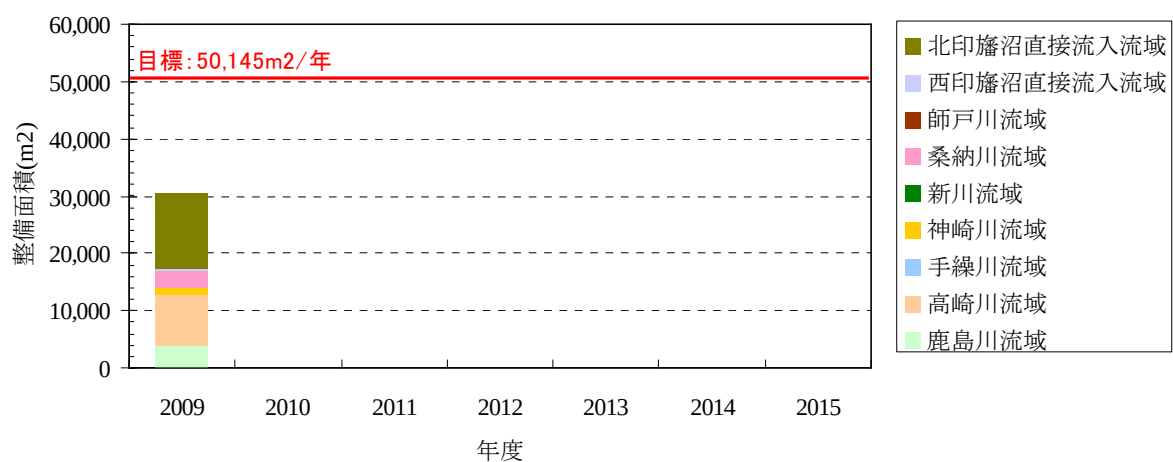


図 2.4 透水性舗装の整備面積

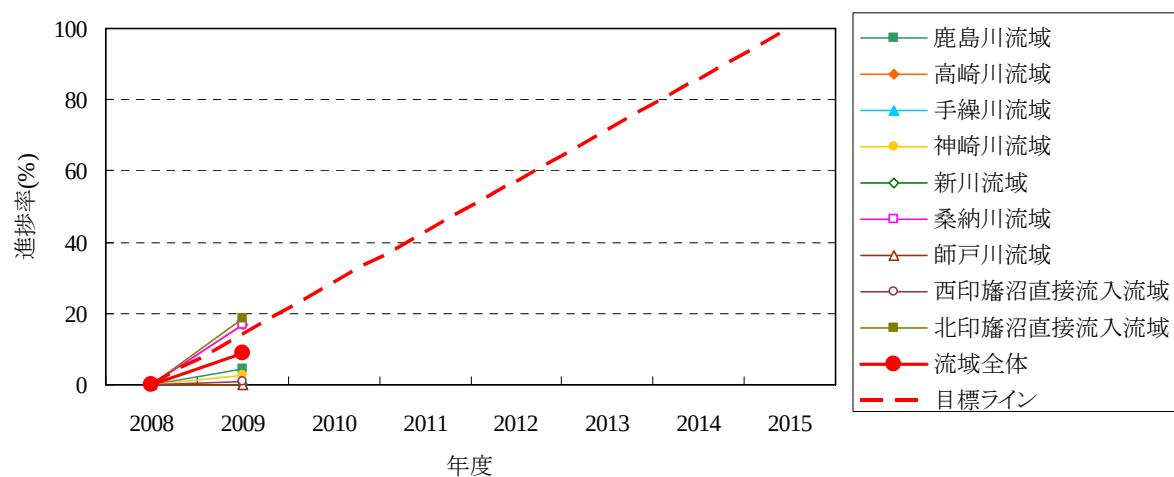


図 2.5 透水性舗装整備の進捗率

(3) 貯留施設の整備貯留量

- 第1期行動計画の計画期間7ヶ年のうち1年が経過した(1/7=14%)が、新川、桑納川の2流域で14%を大幅に超えた進捗となっている。一方で、師戸川流域、北印旛沼直接流入域での設置は少なかった。
- 流域全体では12%の進捗となっており、ほぼ目標に近い進捗となっている。

表 2.3 貯留施設の整備(前年からの増加量)

	第1期行動計画 目標値		第1期行動計画期間(年度)							
	2015年まで	年当たり	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	合計
	(m ³)	(m ³ /年)	(m ³)	(m ³)	(m ³)	(m ³)	(m ³)	(m ³)	(m ³)	(m ³)
鹿島川流域	37,000	5,286	5,164							5,164
高崎川流域	22,000	3,143	1,120							1,120
手繰川流域	13,000	1,858	1,009							1,009
神崎川流域	19,000	2,715	1,020							1,020
新川流域	6,000	858	3,977							3,977
桑納川流域	9,000	1,286	4,843							4,843
師戸川流域	3,000	429	0							0
西印旛沼直接流入流域	5,000	715	156							156
北印旛沼直接流入流域	26,000	3,715	84							84
流域全体	140,000	20,005	17,373							17,373

注) 小数点以下の四捨五入の都合上、合計値が異なる場合がある。

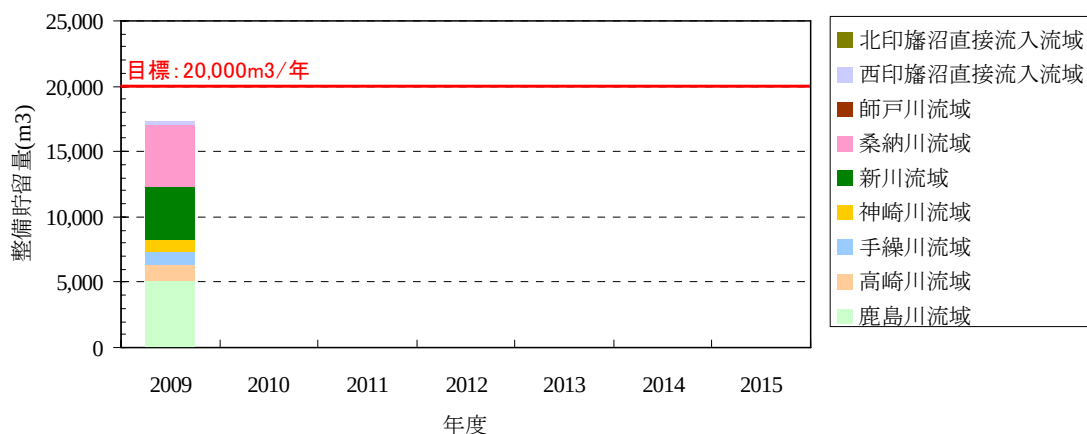


図 2.6 貯留施設の整備貯留量の推移

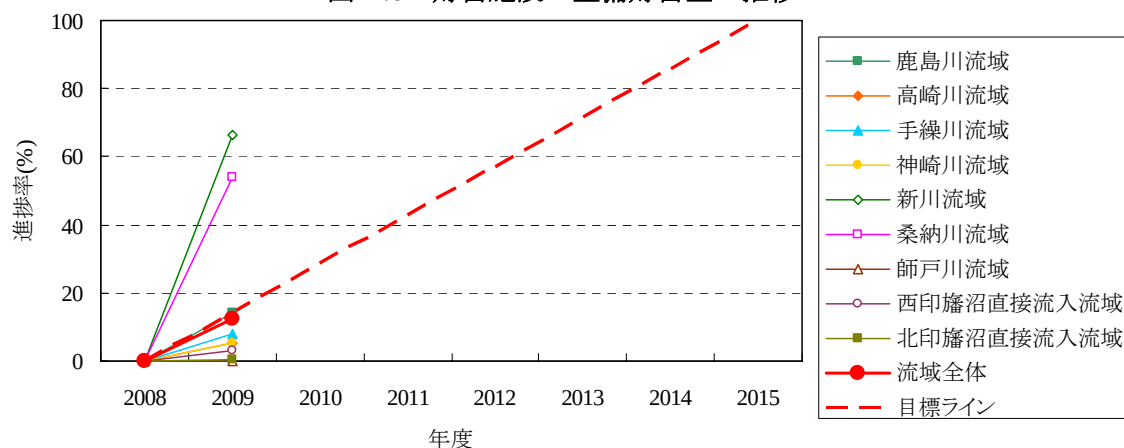


図 2.7 貯留施設設置の進捗率

(4) 下水道普及率

- ほとんどの流域で処理人口が増加しており（下水道普及率 2008 年度末： 76%→2009 年度末： 77%）、流域全体で取り組みが進んでいる。

表 2.4 下水道普及率

	第1期行動計画 目標	現状	第1期行動計画期間(年度)						
	2015年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
鹿島川流域	68	69	70						
高崎川流域	69	45	47						
手繰川流域	93	89	90						
神崎川流域	92	86	85						
新川流域	93	90	90						
桑納川流域	89	81	81						
師戸川流域	95	79	81						
西印旛沼直接流入流域	89	81	84						
北印旛沼直接流入流域	84	76	77						
流域全体	84	76	77						

※下水道普及率：流域人口に対する下水道に接続している人口の割合

注 1) 行動計画目標の下水道普及率は、将来の水洗化人口を予測していることから、比較するため実際に下水道を使用している人口の割合を示す（農林水産省、国土交通省、環境省で公表している汚水処理人口普及状況における下水道普及率とは異なる）。

注 2) 行動計画目標値は自然流域であるため、本表の実績値と異なっている。本表の実績値は毎年調査を行う必要があることから、千葉県水質保全課が毎年実施している湖沼水質保全計画での指定地域内での下水道普及率の集計値を使用している。

(5) 高度処理型合併処理浄化槽利用人数

- 流域全体の対象人口（流域人口－下水道処理人口）に対する高度処理型の割合は流域全体で約4%（高度処理人口：0.6万人／対象人口：17.5万人、H22.4.1時点）である。

表 2.5 高度処理型合併浄化槽対象人口に対する利用人数の割合

	目標	現状	第1期行動計画期間(年度)							
	第1期行動計画									
	2015年 (%)		2008年 (%)	2009 (%)	2010 (%)	2011 (%)	2012 (%)	2013 (%)	2014 (%)	2015 (%)
鹿島川流域	14	2	3							
高崎川流域	16	1	2							
手繰川流域	29	3	5							
神崎川流域	18	3	5							
新川流域	18	3	3							
桑納川流域	22	4	6							
師戸川流域	25	12	12							
西印旛沼直接流入流域	16	4	5							
北印旛沼直接流入流域	14	4	6							
流域全体	17	3	4							

注) 行動計画書での値と本表の値は異なっている。本表での値は毎年調査を行う必要があることから、県水質保全課が毎年実施している湖沼水質保全計画での指定地域内での下水道普及率の集計値を使用している。

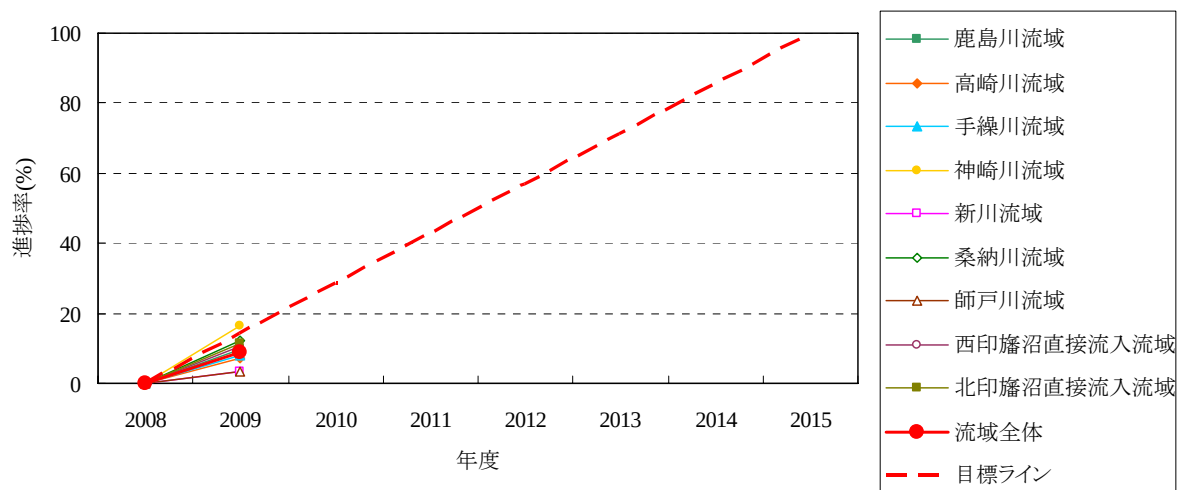


図 2.8 高度処理型合併処理浄化槽利用人数の進捗率

(6) ちばエコ農業による耕作面積及びエコファーマー認定件数

- ・ ちばエコ農業の耕作面積は、現状(2008 年)に比べて微増となっている。
- ・ エコファーマー認定件数は、現状(2008 年)に比べて約 1.3 倍の伸びが見られる。

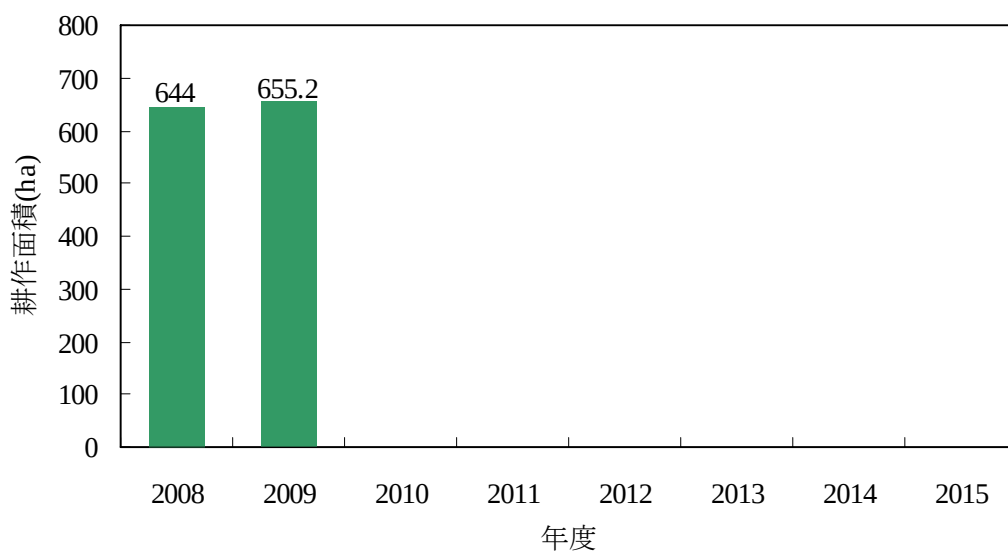


図 2.9 ちばエコ農業による認証耕作面積の推移

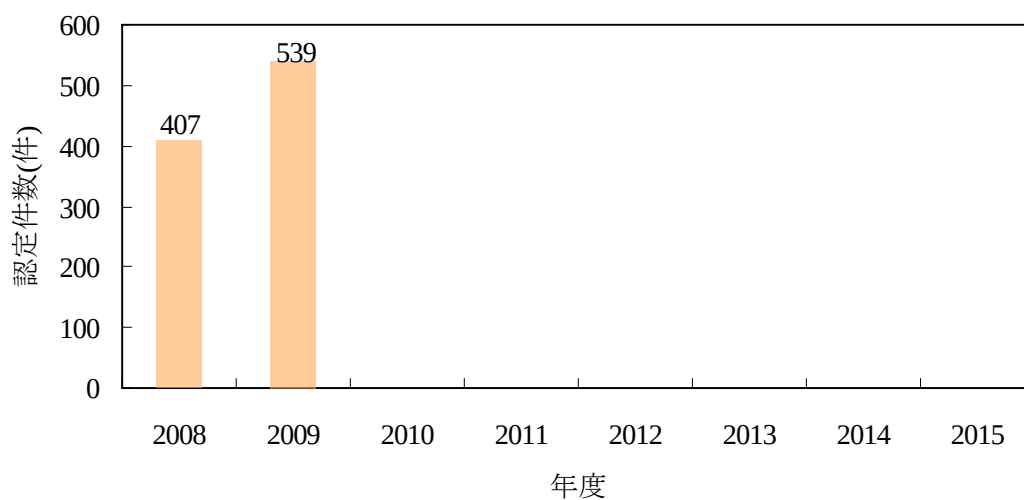


図 2.10 エコファーマー認証件数の推移

※認証面積・認証件数については、印旛沼流域内での集計ができていないため、流域 15 市町村（現 13 市町）の行政区域内での総数としている。

(7) 河道整備延長

- ・ 第1期行動計画の計画期間7ヶ年のうち1年が経過した(1/7=14%)が、高崎川、桑納川で14%を超えた進捗となっている。一方で、鹿島川では進捗はなかった。
- ・ 流域全体では18%の進捗となっており、目標よりやや進んだ進捗となっている。

表 2.6 河道整備実績(前年からの増加量)

	第1期行動計画 目標値		第1期行動計画期間(年度)							
	2015年まで	年当たり	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	合計
	(m)	(m/年)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)
鹿島川流域	950	136	0							0
高崎川流域	500	72	110							110
桑納川流域	3,600	515	958							958
北印旛沼直接流入流域	1,600	229	156							156
合計	6,650	950	1,224							1,224

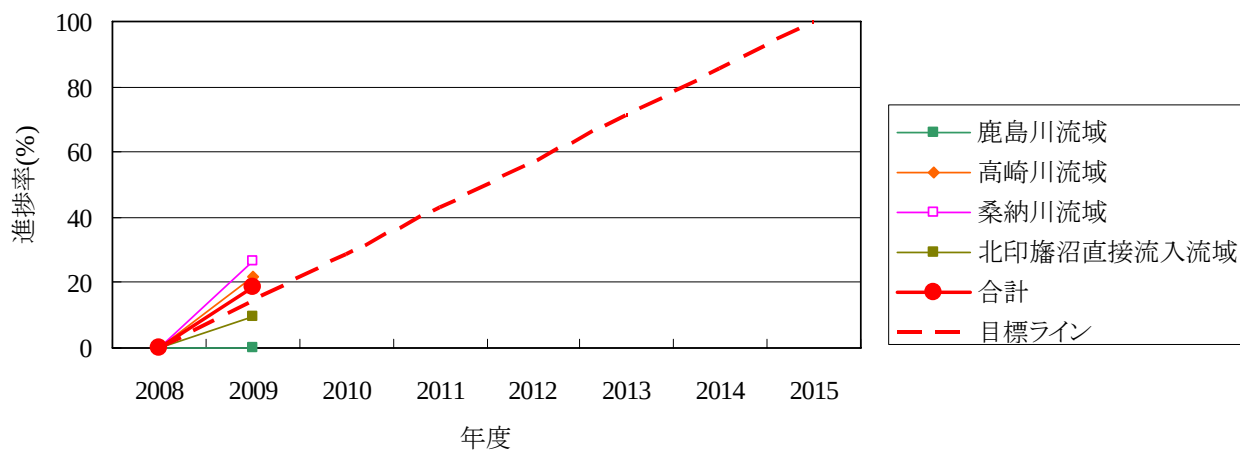


図 2.11 河道整備の進捗率

注) 鹿島川、高崎川、桑納川、北印旛沼直接以外の流域においては目標値が設定されていないため、進捗率を算出していない。

(8) 親水拠点の整備箇所数

- ・ 親水 WG 等において、整備に向けて検討中である。

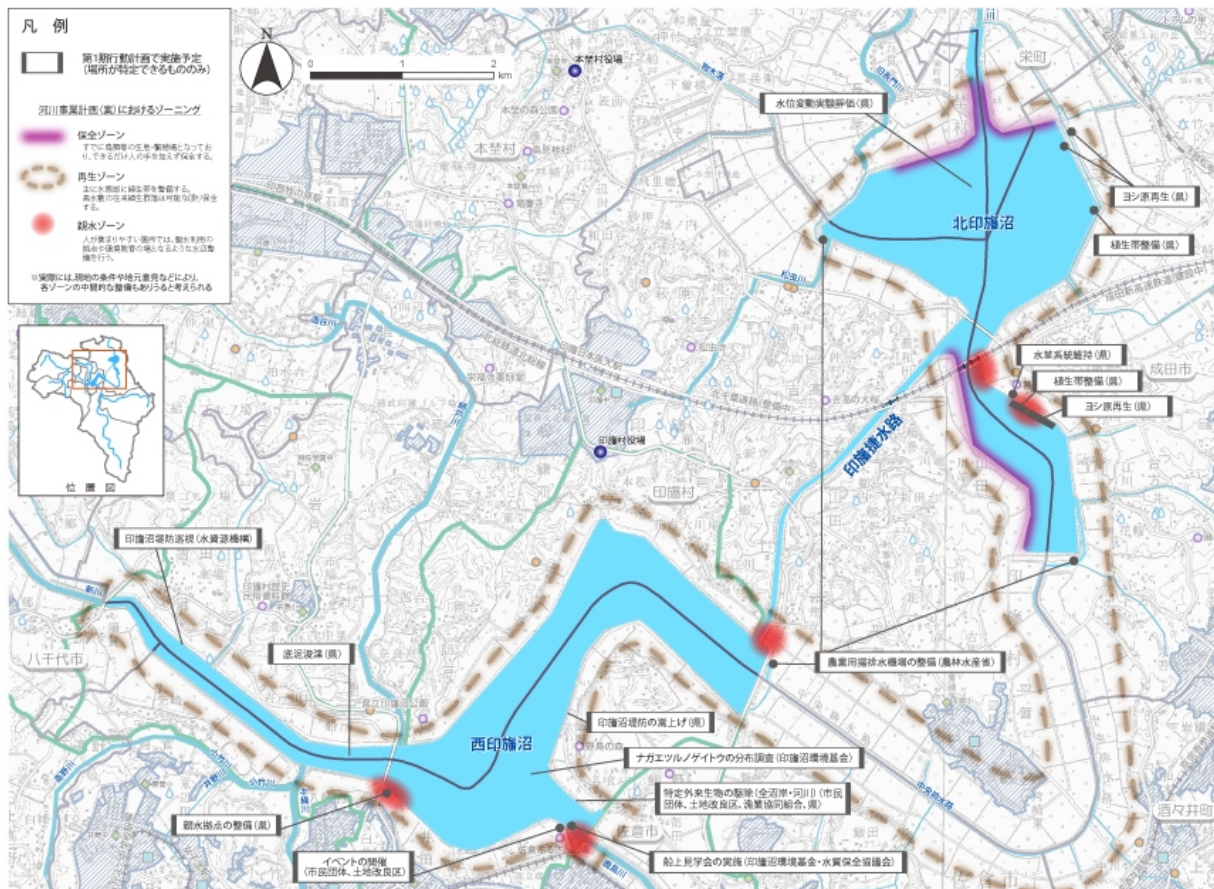


図 2.12 親水拠点予定箇所図（第 1 期行動計画(案)より）

(9) 植生帯整備面積(延長)

- ・ 2009 年度は北印旛沼の甚兵衛大橋工区で 45m、大竹工区で 594m が整備された。

表 2.7 植生帯整備実績(累計)

	第1期行動計画 目標値 2015年まで (m)	現状 2008年 (m)	第1期行動計画期間						
			2009 (m)	2010 (m)	2011 (m)	2012 (m)	2013 (m)	2014 (m)	2015 (m)
印旛沼	8,000	760	1,399						

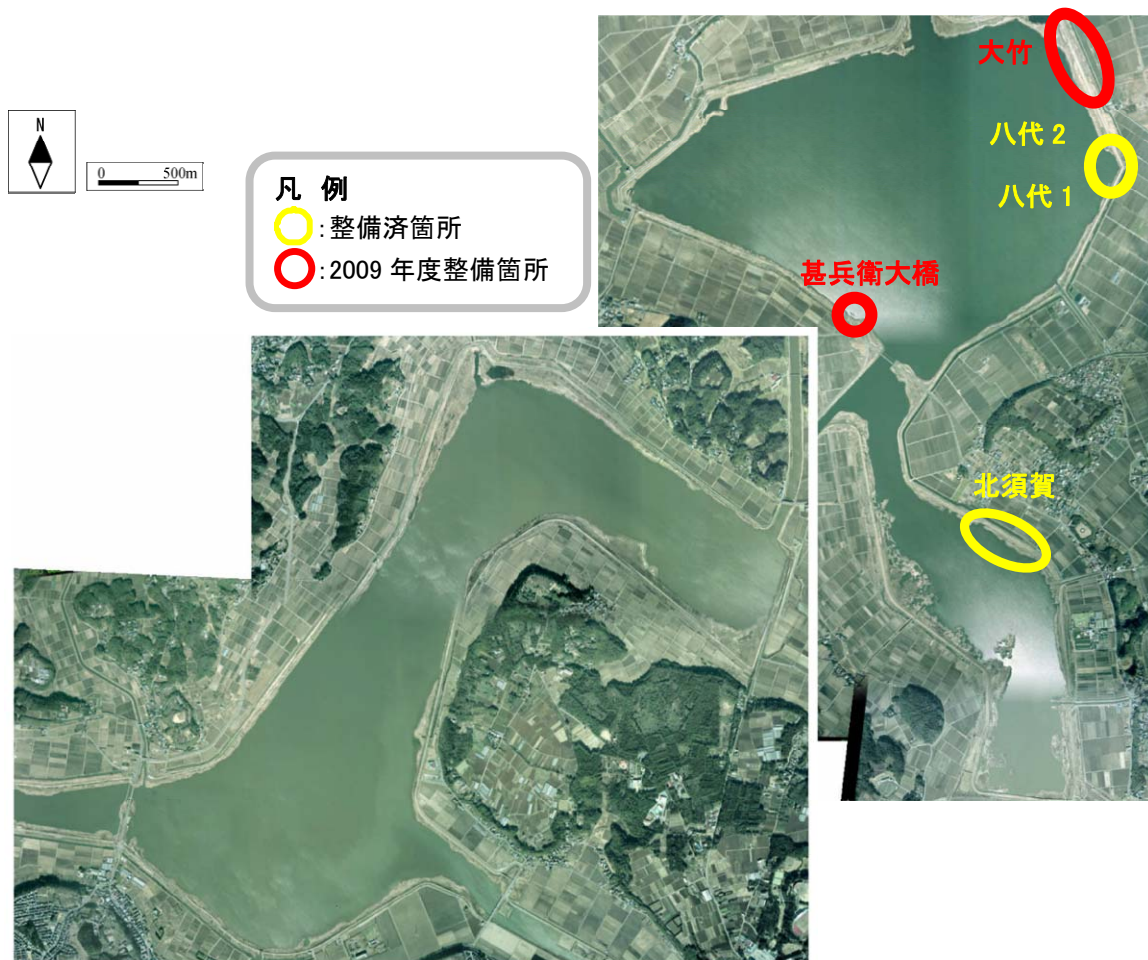


図 2.13 植生帯整備箇所

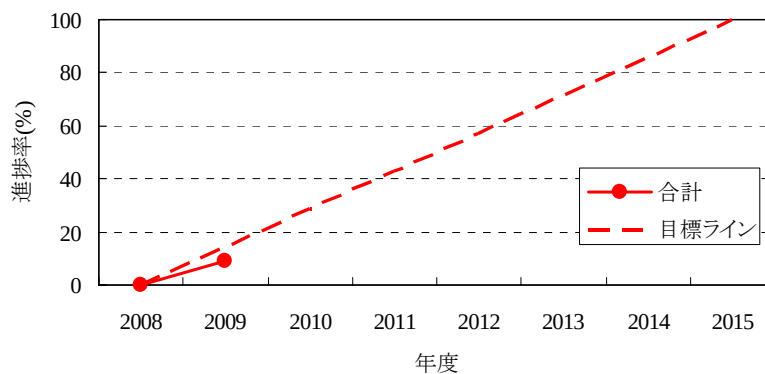


図 2.14 植生帯の再生進捗状況

(10) 水環境をテーマとした環境学習実施学校数

- ・ 流域内の公立小中学校（2009 年現在、小学校 129 校、中学校 57 校）のうち、印旛沼、水環境をテーマとした環境学習実施した学校は小学校の約 35%、中学校の約 15%であった。

表 2.8 水環境をテーマとした環境学習実施学校数

	現状	第 1 期行動計画期間(年度)						
	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
小学校	7	45						
中学校	1	9						
合計	8	54						

(単位:校)

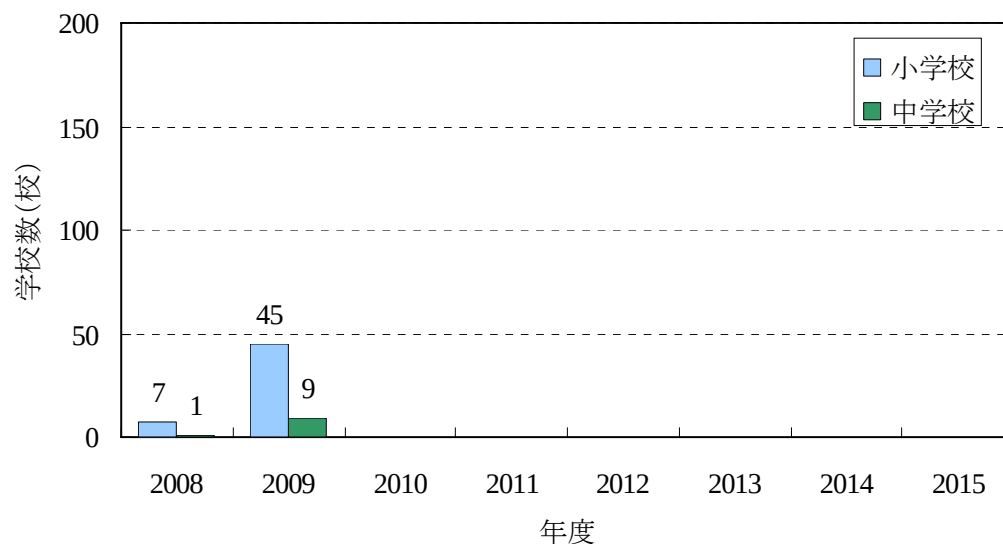


図 2.15 水環境をテーマとした環境学習実施学校数

(11) WEB サイトいんばぬま情報広場のアクセス件数

- ・ 2009 年度はアクセス数が約 1.2 倍に増えた。
- ・ 2009 年 9 月にリニューアルを行うとともに、流域のイベント情報を定期的に更新するようにしたためと考えられる。

表 2.9 Web サイトいんばぬま情報広場アクセス数の推移

第 1 期行動計画 目標値	現状	第 1 期行動計画期間(年度)						
2015 年まで	2008 年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
2000	約 800	967						

(単位：アクセス/月)

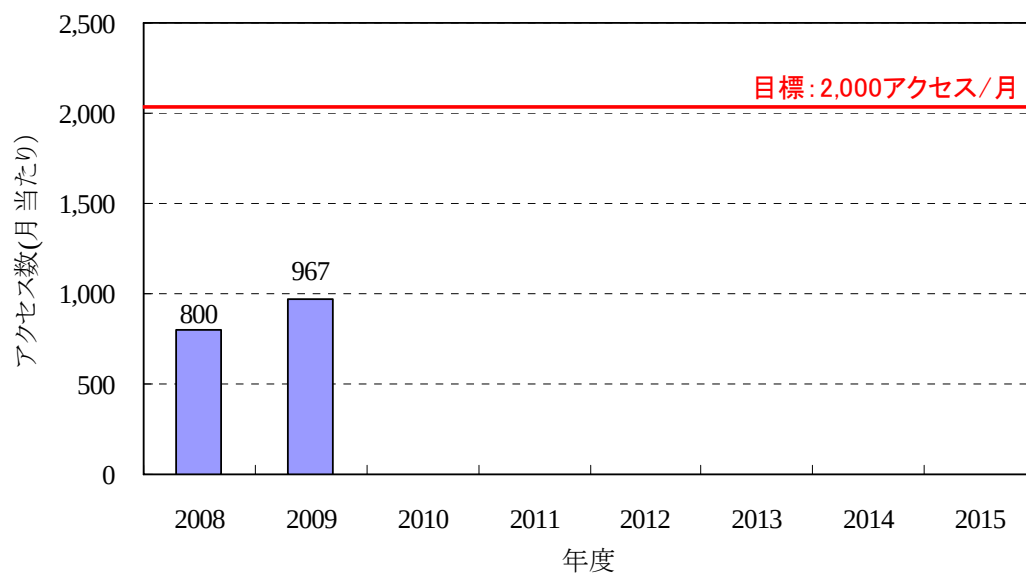


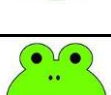
図 2.16 Web サイトいんばぬま情報広場アクセス数の推移

3.目標達成状況

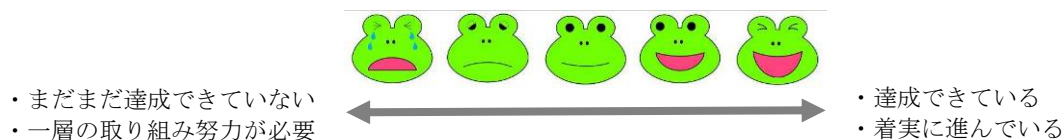
3.1 目標達成状況とりまとめ

9つの目標達成の評価をに表 3.1示すように5段階の「かえるちゃんマーク」で表した。

表 3.1 目標の達成状況

目標達成 評価指標	2015 年目標値	2009 年の達成状況	
水質	★クロロフィル a :年平均 75 μ g/L 以下 ★COD:年平均 7.5mg/L 以下		クロロフィル-a は 2008 年よりも悪化している。COD はほぼ横ばいである。
アオコ発生	★アオコの発生が目立たなくなる		発生箇所数、日数ともに 2008 年より減少した。
清澄性	★透明度が改善する :0.5m 程度		2008 年とほぼ同等の 0.2~0.3m 程度である。
におい	★臭気が少なくなる		藻臭や下水臭、かび臭などの臭気が発生し続けているが、発生頻度は横ばいの傾向である。
水道に適した水質	★2-MIB、トリハロメタン生成能が改善する		2-MIB については目標値を大幅に上回っている。トリハロメタン生成能については、2008 年より悪化している。
利用者数	★増加する		2008 年よりも増加したが、近年の傾向は横ばいである。
湧水	★印旛沼底や水源の谷津で豊かな湧水が湧く		加賀清水湧水が枯渇する日数は 0 である。
生き物	★かつて生育していた沈水植物が再生する ★特定外来生物を侵入・拡大させない		植生帯整備工区において沈水植物や貴重種が確認された。 カミツキガメの駆除が継続的に行われている
水害	★治水安全度が向上する		整備が進んでいる。

(評価の凡例)



3.2 各目標に対する達成状況

(1) 水質

目標達成 評価指標	2015 年目標
水質	クロロフィル a : 年平均 75 μ g/L 以下 COD : 年平均 7.5mg/L 以下

1) 達成状況

A) COD

- ・ 2009 年度は西沼が 8.6 mg/L、北沼が 9.8mg/L であり、2008 年度と比較してほぼ同程度となっている。

B) クロロフィル-a

- ・ 近年 10 年では、2007 年を除くとほぼ横ばい傾向である。

2) 取り組みの方向性

- ・ 下水道や高度処理型合併浄化槽等による確実な排出汚濁負荷の削減、市街地面源負荷対策といった流域対策と、水草再生、植生帯整備といった沼の自浄作用回復を継続的に実行していく必要がある。

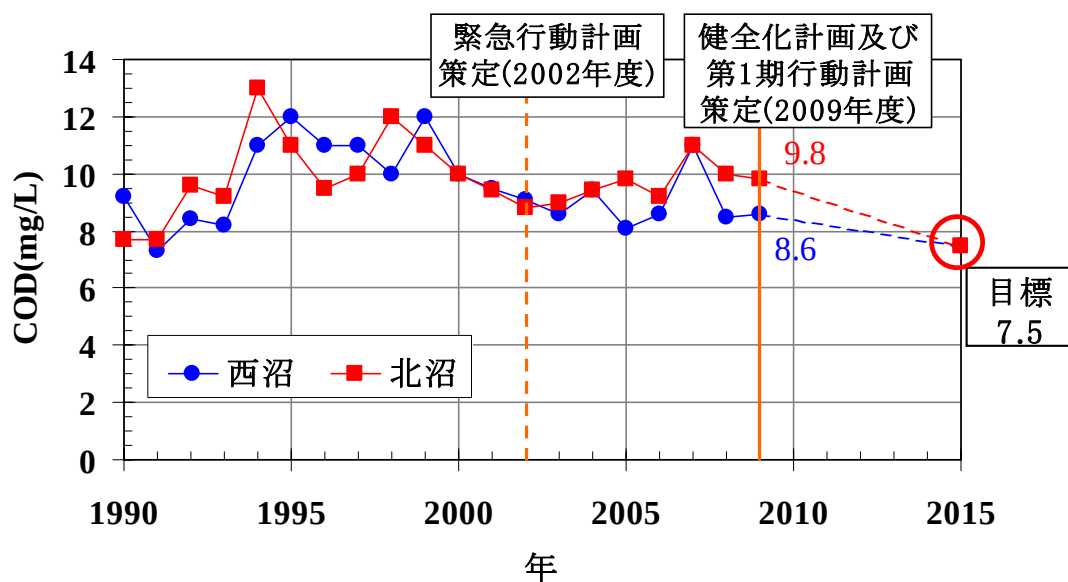


図 3.1 水質(COD)の推移

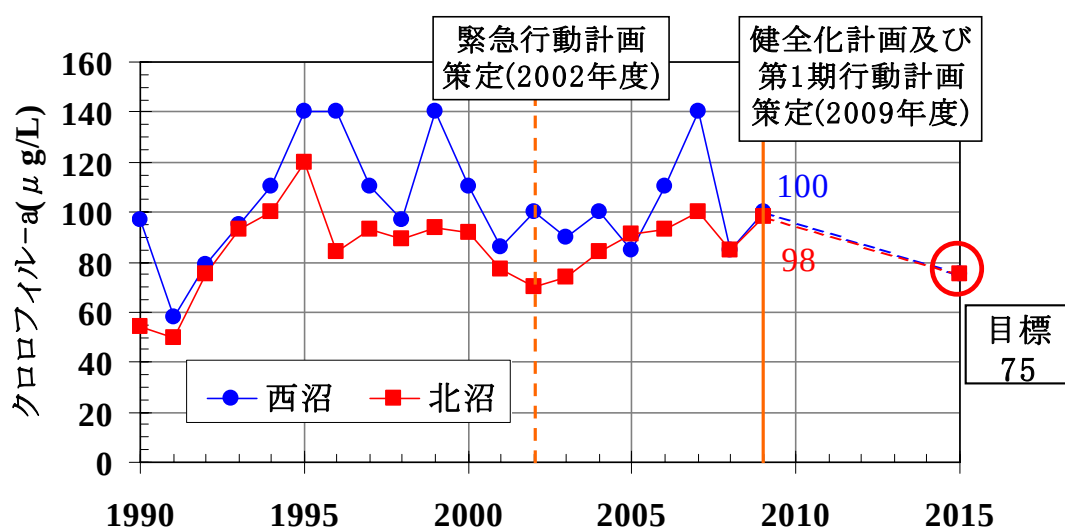


図 3.2 水質(クロロフィル-a)の推移

(観測地点) 西沼：上水道取水口下地点、北沼：北印旛沼中央地点

(2) アオコ

目標達成 評価指標	2015 年目標
アオコ	アオコの発生が目立たなくなる

1) 達成状況

- ・ 昨年度のアオコ発生期間は、7 月～10 月上旬であったが、本年度は印旛沼全体で 6 月頃から発生が見られ、9 月中旬に終息した。ただし、発生箇所、日数とも昨年度より減少している。

2) 取り組みの方向性

- ・ アオコの発生は気象条件にも大きく影響を受けることから、今後も継続してデータを蓄積していきながら、長期的な傾向を把握し、評価していく必要がある。

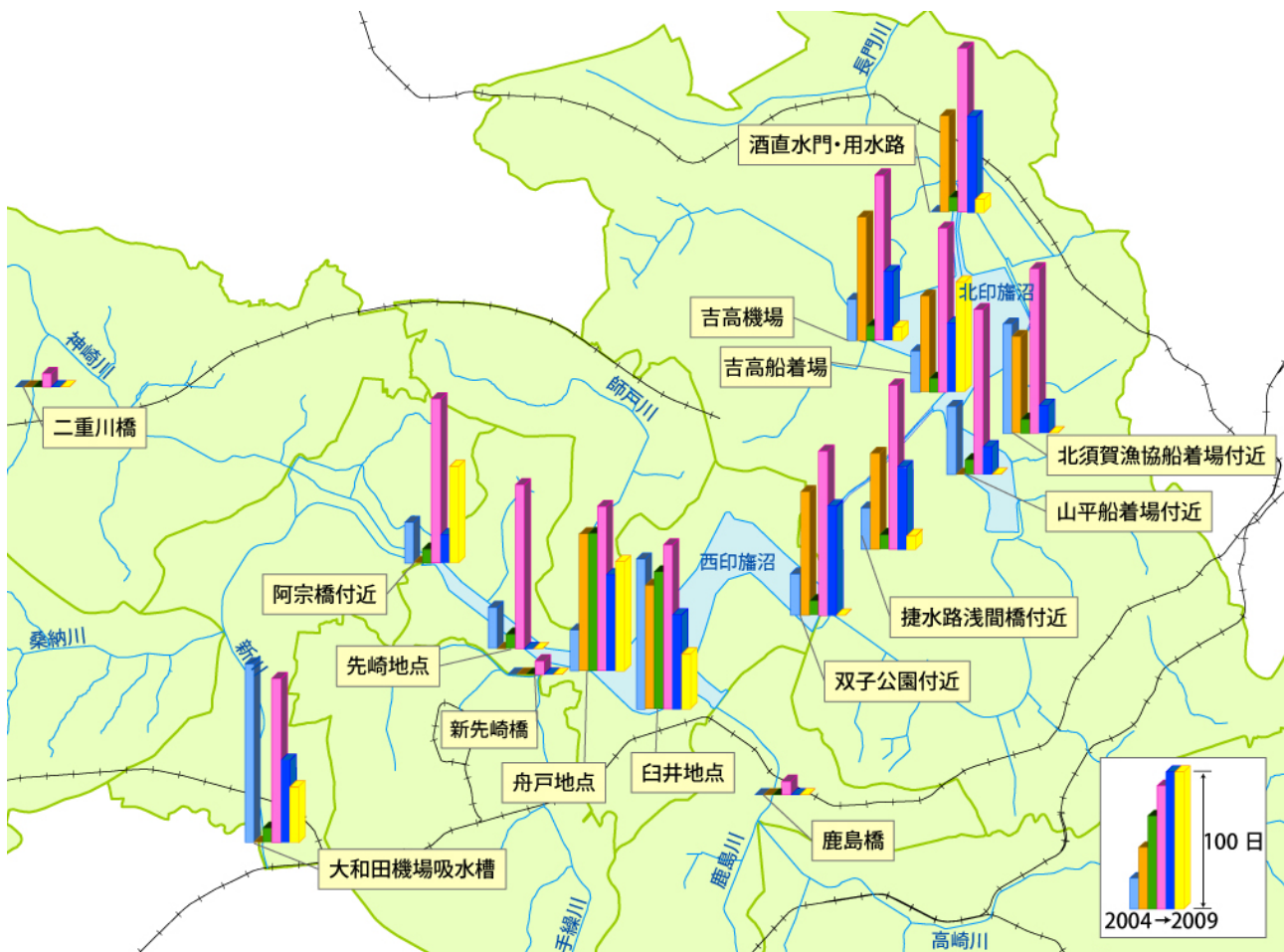


図 3.3 2004～2009 年度におけるアオコの発生状況

(3) 清澄性

目標達成 評価指標	2015 年目標
清澄性	透明度が改善する : 0.5m 程度

1) 達成状況

- ・ 見透視度調査結果について、佐倉ふるさと広場地点（西印旛沼）での調査結果を示す。達成率は、観測した見透視度／目標とする見透視度（1m）で算出した。
- ・ 見透視度調査は、2005 年 11 月に始めてから 5 年を越えた。当初は見透視度が 0 となる時期があったが、近年では 0.2～0.3 で推移し、冬季に見透視度が上昇する傾向が見られる。2010 年 1 月には最大となる 0.35 を記録した。

2) 取り組みの方向性

- ・ 沼内の懸濁物質を低減させる取組として、流入負荷削減や沼内の水生植物の再生により、一層の水質改善、底泥の巻き上げ抑制が必要である。

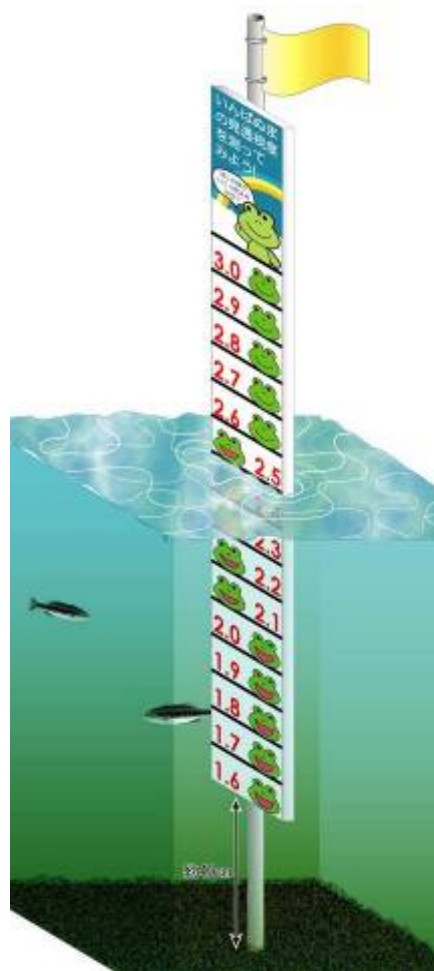


図 3.4 見透視度計のイメージ

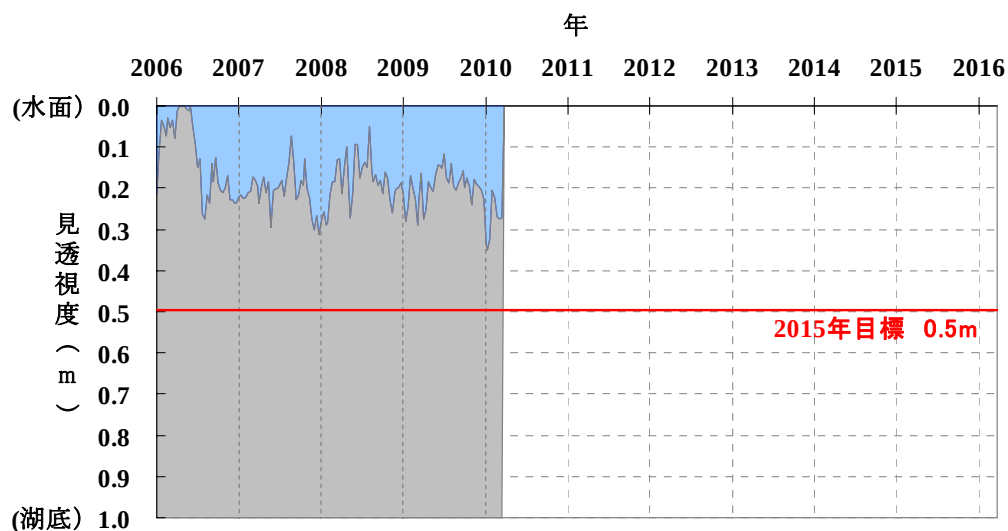


図 3.5 見透視度調査結果（佐倉ふるさと広場）

(4) におい

目標達成 評価指標	2015 年目標
におい	臭気が少なくなる

1) 達成状況

- ・ 柏井浄水場原水の水質検査結果（千葉県水道局）によると、2005 年以来、藻臭や下水臭、かび臭などの臭気が発生し続けている。

2) 取り組みの方向性

- ・ 植物プランクトンの増殖状況により影響を受けるため、長期的な変化を見ていくことが必要である。

表 3.2 柏井浄水場原水(印旛取水場)の臭気

年	月	藻臭	下水臭	かび臭	青草臭	年	月	藻臭	下水臭	かび臭	青草臭
2005	4	●				2008	4	●	●		
2005	5	●	●	●		2008	5	●			
2005	6	●	●			2008	6	●			
2005	7	●	●	●		2008	7		●		●
2005	8	●	●			2008	8		●	●	
2005	9		●			2008	9	●		●	
2005	10	●	●			2008	10	●	●		
2005	11	印旛沼取水場更新工事のため、 印旛沼より取水せず				2008	11		●		
2005	12					2008	12	●	●		
2006	1					2009	1		●		
2006	2					2009	2	●	●		
2006	3					2009	3	●		●	
2006	4					2009	4		●		●
2006	5	●		●		2009	5	●	●	●	
2006	6	●	●			2009	6	●			
2006	7	●	●			2009	7	●			
2006	8	●	●			2009	8	●		●	
2006	9	●	●			2009	9	●		●	
2006	10	●	●			2009	10	●	●		
2006	11	●	●			2009	11	●			
2006	12	●	●			2009	12	●	●		
2007	1	●	●			2010	1	●			●
2007	2	●	●			2010	2		●		
2007	3	●	●			2010	3	●			
2007	4	●	●			※2009 年 4 月～2010 年 3 月は速報値 出典：千葉県水道局 HP より					
2007	5	●	●	●							
2007	6	●	●	●							
2007	7	●	●	●							
2007	8	●		●							
2007	9	●	●	●							
2007	10	●		●							
2007	11	●		●							
2007	12	●		●							
2008	1	●	●								
2008	2	●	●								
2008	3	●	●								

(5) 水道に適した水質

目標達成 評価指標	2015 年目標
水道に適した水質	2-MIB、トリハロメタン生成能が改善する

1) 達成状況

- ・ 柏井浄水場原水の水質検査結果（千葉県水道局）によると、2-MIB については 2005 年に $0.052 \mu\text{g/L}$ であった以降目標値である $0.1 \mu\text{g/L}$ を大幅に上回った状態である。2009 年度も年最大 $1.2 \mu\text{g/L}$ と目標値を大幅に上回っている。
- ・ トリハロメタン生成能については 2005 年度以降徐々に低下してきていたが、2009 年度に年最大 0.131mg/L と前年度より悪化した。

2) 取り組みの方向性

- ・ アオコの発生を抑制するため、水質改善の取り組みと同様に流域対策、沼内対策を実行していく必要がある。

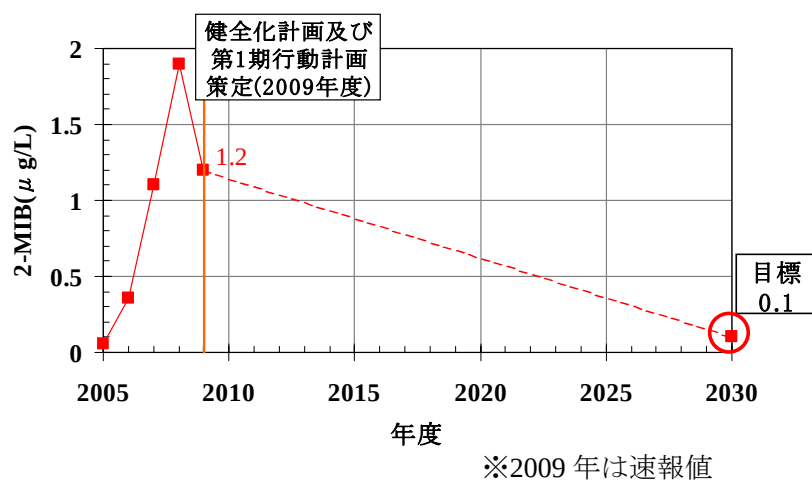


図 3.6 2-MIB(年最大値)の推移(柏井浄水場原水)

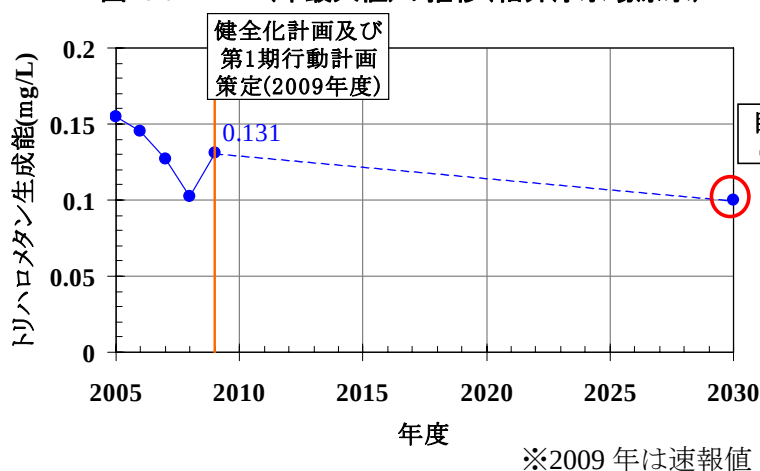


図 3.7 トリハロメタン生成能(年最大値)の推移(柏井浄水場原水)

(6) 利用者数

目標達成 評価の視点	2015 年目標
利用者数	増加する

1) 達成状況

- 2009 年の印旛沼利用者数は 63.7 万人で、2007 年の 64.9 万人とほぼ同程度である。利用の内訳は、清掃活動やサイクリングに参加する人数に大幅な変化はないが、佐倉ふるさと広場の日常的な利用が今年度も多く見られた。コスモス祭りでの利用者は昨年度より増加している。また、2005 年より休止となっていた佐倉の花火大会は 2008 年に再開し、2009 年も 8 月に行われ 15 万人の利用者があった。

2) 取り組みの方向性

- イベント時の利用だけでなく、周辺住民が日常的に印旛沼を利用するため人が水に親しめる拠点等の整備といった取り組みも必要である。

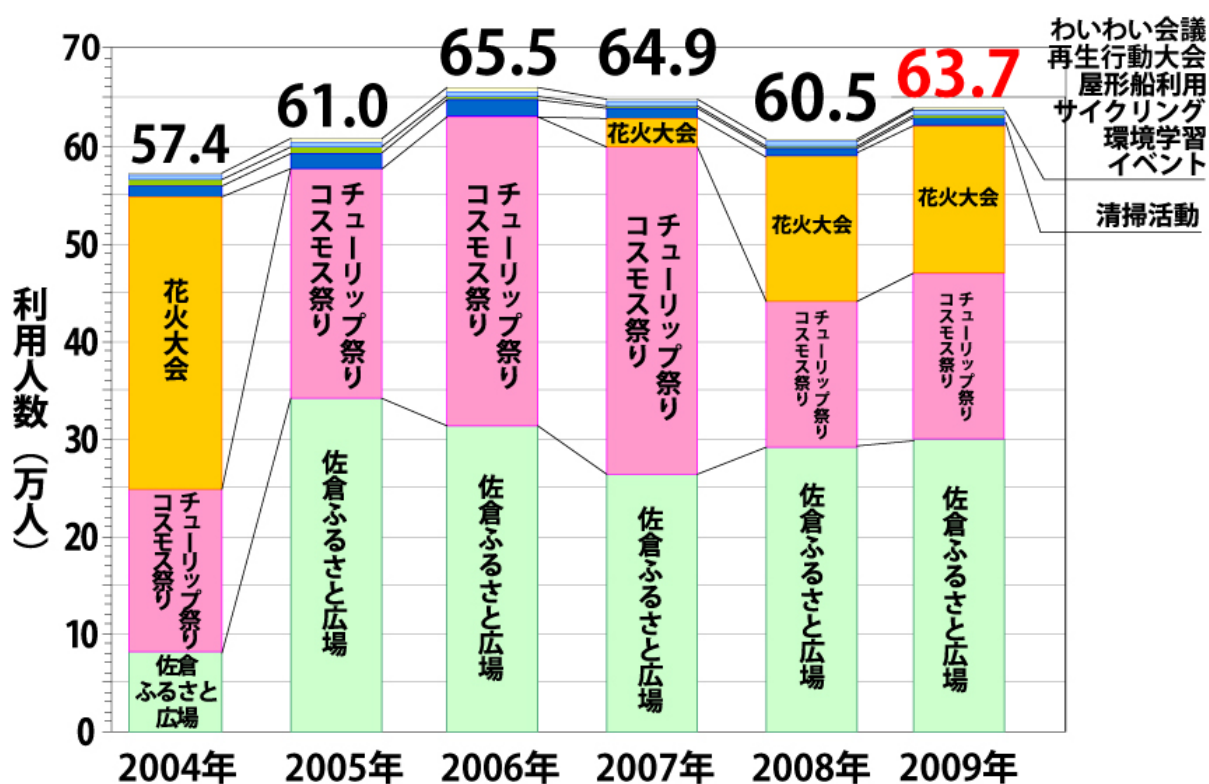


図 3.8 利用人数の比較(2004～2009 年)

(7) 湧水

目標達成 評価の視点	2015 年目標
湧水	印旛沼底や水源の谷津で 豊かな清水が湧く

1) 湧水量

A) 達成状況

- ・ 雨水浸透マス設置前と比べ設置後の加賀清水湧水池の枯渇日数は減少し、年間を通してほぼゼロとなっている。

B) 取り組みの方向性

- ・ 浸透対策による湧水復活の成功事例として活用していく。
- ・ 湧出箇所を清掃、維持管理するなど地域住民と連携して地域の宝として思ってもらえるよう継続して取り組む。

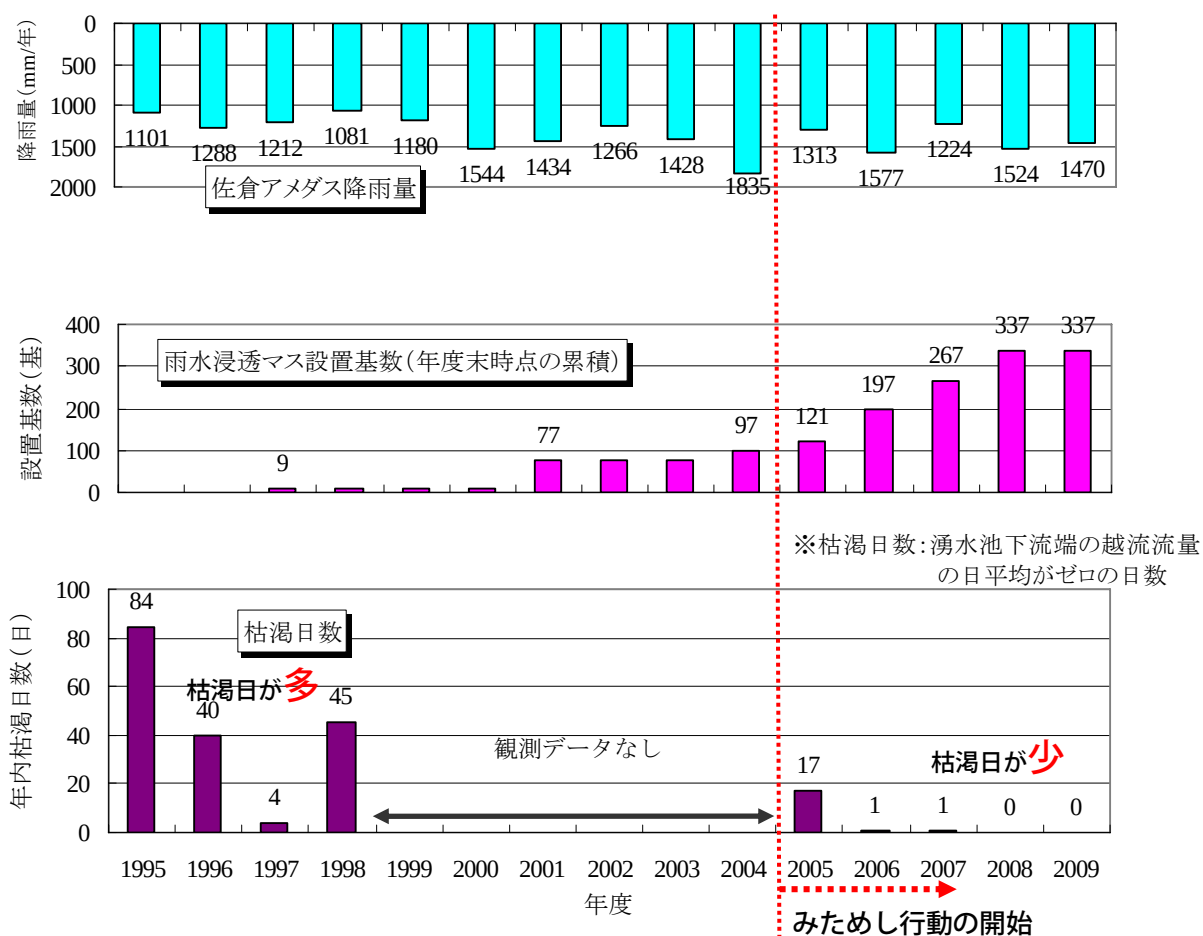


図 3.9 加賀清水での浸透マス設置と湧水池の枯渇日数

2) 湧水水質

A) 達成状況

- ・ みためし行動を開始する前から農家の方による自主的な過剰施肥の適正化の取り組みもあり、近年、立沢湧水の硝酸態窒素濃度（ $\text{NO}_3\text{-N}$ ）が減少してきている。

B) 取り組みの方向性

- ・ 生産の面での取り組みとしてはちばエコ農業等環境にやさしい農業の拡大や、土壌診断による施肥適正化の普及を進める。
- ・ 流通、消費の面での取り組みとしては、ちばエコ農産物の流通ルートの確保及び消費の拡大をすることにより、消費者が環境配慮型農業による製品を購入しやすい環境を整備する必要がある。

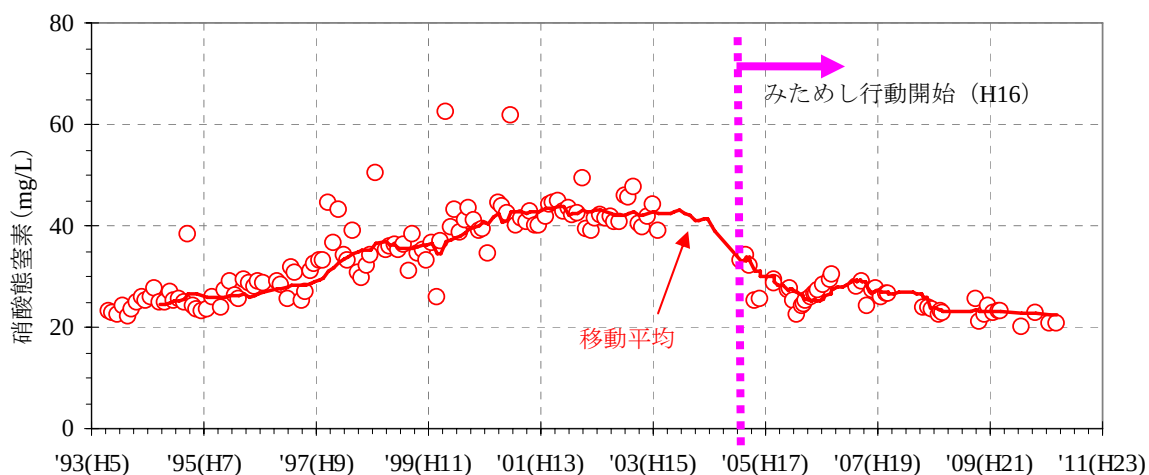


図 3.10 立沢湧水の長期的な水質変動(硝酸態窒素)

注：図中の実線は移動平均（12 区間）であり、季節的变化や調査データのノイズを除去した、経年的な変化傾向を表している。

データ出典：NPO 法人水環境研究所による調査結果（H16 以前、月 1 回程度）

(8) 生き物

目標達成 評価指標	2015 年目標
生き物	・かつて生育していた沈水植物が再生する ・特定外来生物を侵入・拡大させない

1) 沈水植物

A) 達成状況

- ・ 北須賀工区においては、2008 年度に広範囲に繁茂したオオイヌタデはヒメガマやマコモなど湿潤な環境を好む植物に遷移している。また、沈水植物であるコウガイモ等が確認されている。
- ・ 八代 1 工区において、2008 年度はシャジクモ属、フラスコモ属を中心に豊富な沈水植物群落を形成したエリア A では、2009 年度は沈水植物が確認されなかった。エリア B ではシャジクモ属、フラスコモ属を中心として、豊富な沈水植物群落が確認された。再生した沈水植物種数は 18 種（内、外来種オオカナダモを含む）である。

B) 取り組みの方向性

- ・ 今後、整備済の植生帯箇所での状況を注視するとともに、西印旛沼にも植生帯整備を展開し、より水生植物が生育できる環境を再生していくことが必要である。



図 3.11 八代工区・北須賀工区位置図

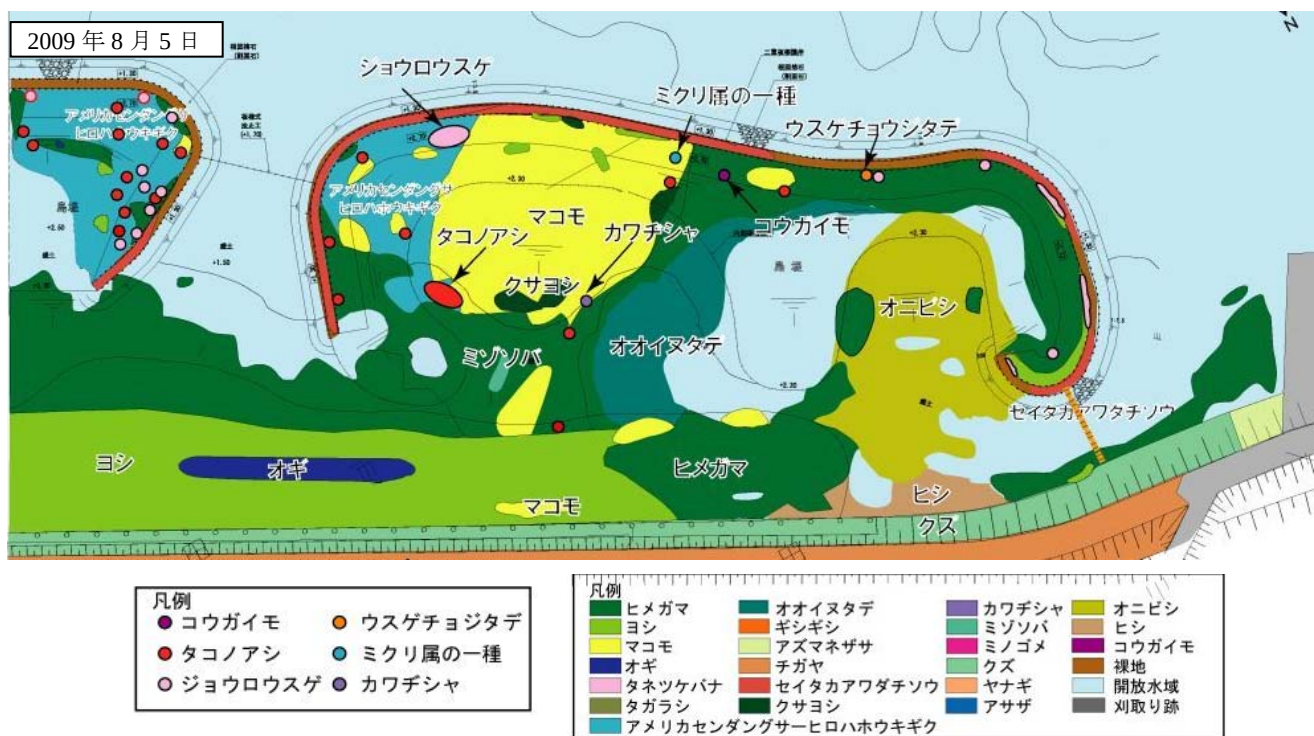


図 3.12 北須賀工区植生状況

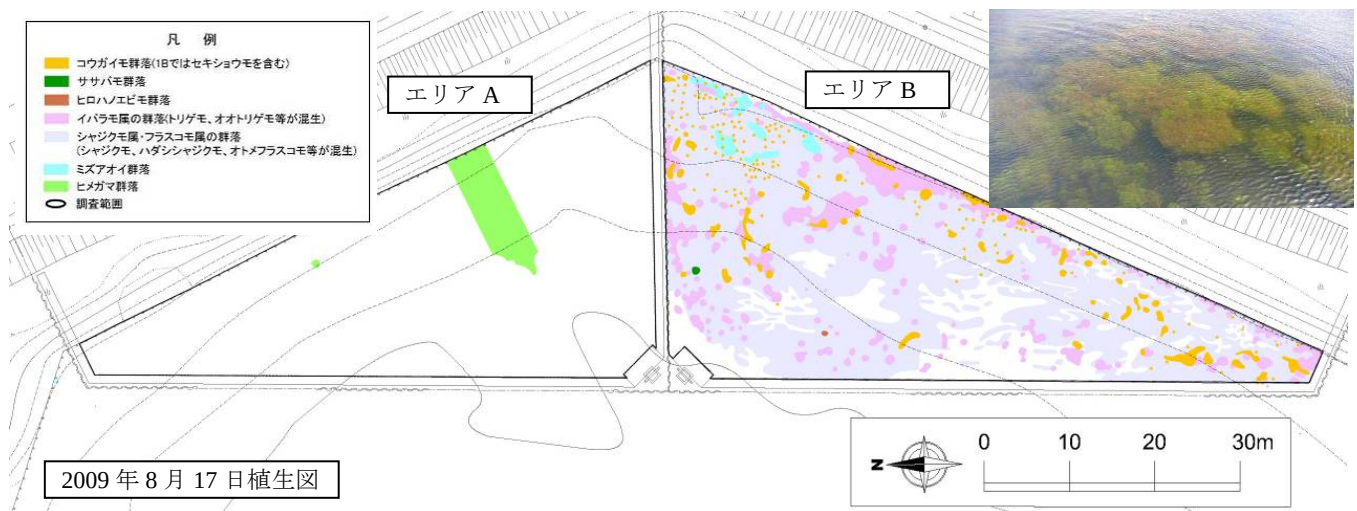


図 3.13 八代1工区植生状況

2) 特定外来生物

A) 達成状況

- ・ ナガエツルノゲイトウについては、2005 年度および 2008 年度にほぼ沼全域で行われており、約 22,000m²の防除が行われているが、その後、一度防除した箇所において再繁茂が確認されている。
- ・ カミツキガメについては、2007 年度より鹿島川、高崎川を中心に防除捕獲が実施されており、2007 年度に 247 頭、2008 年度には 157 頭、2009 年度には 216 頭の駆除が行われた。

B) 取り組みの方向性

- ・ ナガエツルノゲイトウ、カミツキガメは今後も継続して駆除を行っていく必要がある。また、新たな外来種への対応も生態系 WG や水質改善技術検討会において対応を検討していく必要がある。

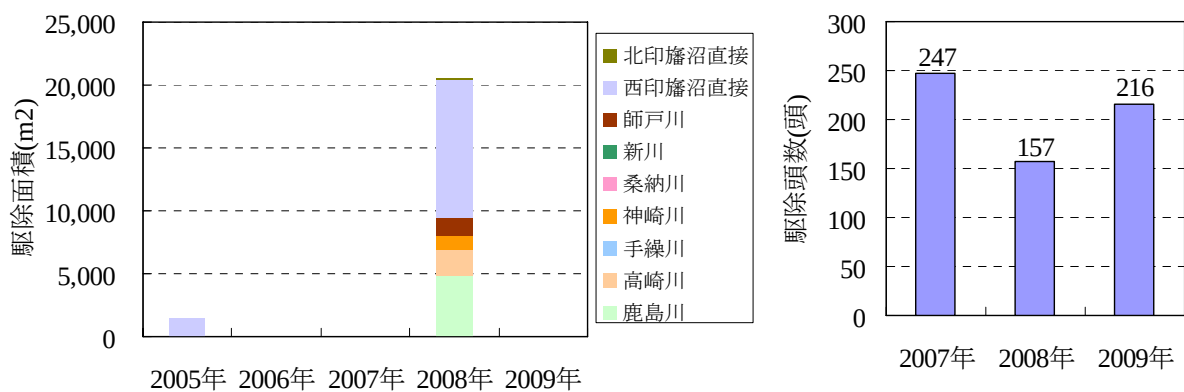


図 3.14 ナガエツルノゲイトウ駆除面積(左図)及びカミツキガメ駆除頭数(右図)



図 3.15 ナガエツルノゲイトウ繁茂状況(写真左)・カミツキガメ捕獲状況(写真右)

(9) 水害

目標達成 評価指標	2015 年目標
水害	治水安全度が向上する

1) 達成状況

- ・ 平成 18 年、19 年度には避難勧告が出されましたが、平成 17 年度以降は、印旛沼流域で大規模な水害発生は生じなかった。近年で浸水被害が生じたのは平成 16 年度である。
- ・ 近年、鹿島川と高崎川流域内の宅地開発が急激に進んで雨水の流出量が増大して、浸水被害が発生する事態となったため、下流部において河幅を広げ、流下能力を改善する工事を進めている。

2) 取り組みの方向性

- ・ 浸水被害の発生は、その年の降雨状況にもよるため、長期的な期間で目標達成状況を確認していく必要がある。また、降雨時の流出抑制のため、貯留・浸透対策等の流域対策とともに河川改修などの取り組みを継続して実施する必要がある。



図 3.16 環境に配慮した河道整備（高崎川）

表 3.3 浸水面積と日最大降水量、時間最大降水量

浸水面積と最大日降水量					最大時間降水量	
年度	浸水面積 (ha)	降水量 (mm)			降水量 (mm)	
		日付	日最大	時間最大	日付	時間最大
2003(H15)	0	8/15	145	19	5/20	39
2004(H16)	61.9	10/9	155	42	9/4	48
2005(H17)	0	7/26	77	17	7/6	21
2006(H18)	0	10/6	169	12	9/27	27
2007(H19)	0	10/27	110	15	9/12	28
2008(H20)	0	4/8	83	12	9/20	21.5
2009(H21)	0	8/10	142	65.5	8/10	65.5

雨量データ出典：気象庁 佐倉アメダスデータ

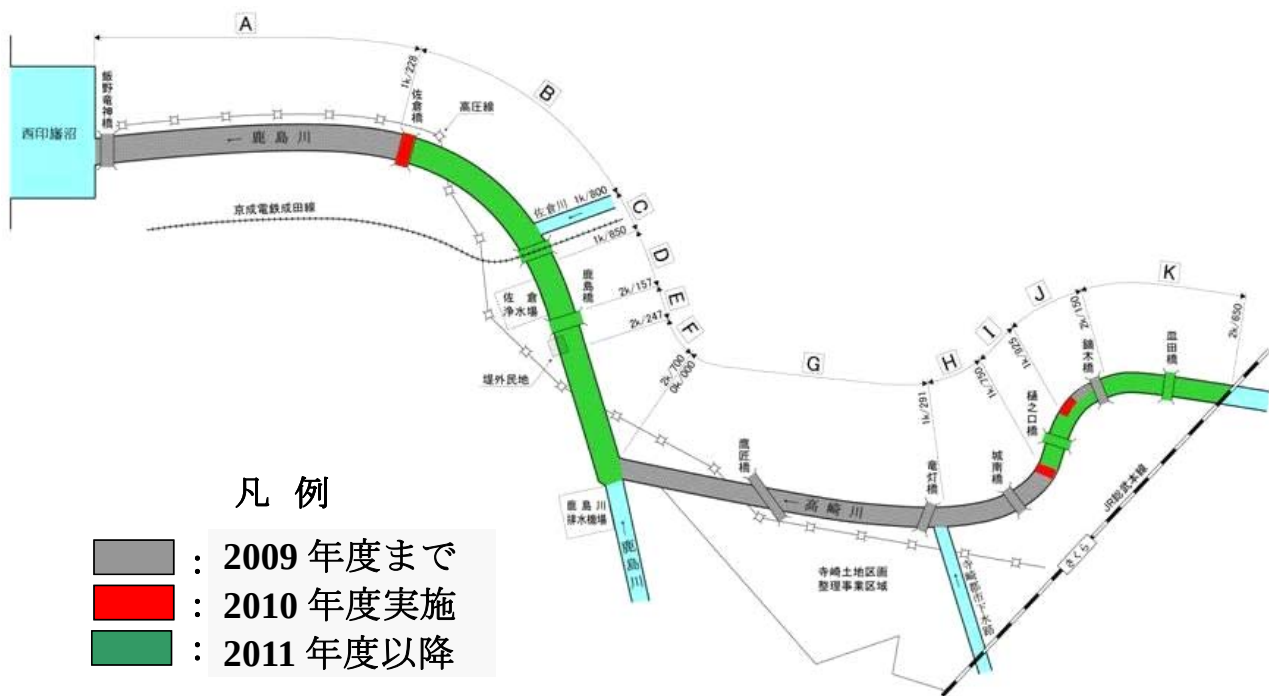


図 3.17 鹿島川・高崎川の河道整備状況

4.市町村みためしの報告

平成 17 年度より進めてきた、「市町村みためし」について、平成 21 年度の実施結果及び平成 22 年度の予定を、次ページ以降に示す。

表 4.1 市町村みためし 2009 年度の実施結果と 2010 年度の実施予定

市町村	2009（平成 21）年度実施結果	2010（平成 22）年度実施予定
千葉市	湧水調査	自然観察会
船橋市	戸建住宅への浸透枳設置促進	戸建住宅への浸透枳設置促進
成田市	高度処理型合併浄化槽の導入と普及	高度処理型合併浄化槽の導入と普及
佐倉市	補助制度を活用した雨水貯留浸透施設の整備	加賀清水湧水
八千代市	やちよの川をきれいにしよう！	やちよの川をきれいにしよう！
鎌ヶ谷市	印旛沼流入河川の水質調査	印旛沼流入河川の水質調査
四街道市	印旛沼流入河川清掃	印旛沼流入河川清掃
八街市	流域河川（鹿島川・高崎川）の清掃	流域河川（鹿島川・高崎川）の清掃
	高度処理型合併浄化槽の設置の推進	高度処理型合併浄化槽の設置の推進
印西市	高度処理型合併浄化槽の導入	高度処理型合併浄化槽の導入
白井市	廃食油の回収	廃食油の回収
富里市	高度処理型合併浄化槽の導入	高度処理型合併浄化槽の導入
酒々井町	印旛沼中央排水路周辺一斉清掃	印旛沼中央排水路周辺一斉清掃
栄町	水辺のクリーン作戦	水辺のクリーン作戦

1) 千葉市

A) 湧水調査

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名	千葉市	
②行動実施部課名	環境保全部環境保全推進課	
③実施行動名	湧水調査	
④行動の目的		
⑤【新規】位置づけた経緯 【昨年度から継続】 昨年度の問題点・課題に対する改善方法		
⑥実施箇所	坂月川ビオトープ湧水池他 9 地点	
⑦実施日時	湧水池点を 2 回に分けて実施 (H21.5.13/H21.6.8)	
⑧行動参加者	市民、学識経験者、行政	
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法	H22.3 末	
⑩成功した点・改善できた点		
⑪なぜ成功、改善したのか（工夫した点など）		
⑫問題点・課題・改善できなかった点	湧水の活用ができるような湧水地を見出せなく、市民の意識を取り込んだでの保全は難しい。	
⑬ ⑫の問題点、課題を解決するため		
⑭今後、この行動をより発展させていくために		
⑮平成 21 年度の結果を踏まえた次年度の予定	みためし行動の再検討	

B) 自然観察会

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名		千葉市
②行動実施部課名		環境保全部環境保全推進課
③実施行動名		自然観察会
④行動の目的		鹿島川を通じて、印旛沼が千葉市民の重要な飲料水源であることを知ってもらう。
⑤【新規】位置づけた経緯 【昨年度から継続】 昨年度の問題点・課題に対する改善方法		鹿島川の水質は、生活排水対策の推進により環境基準を達成することができた。 しかし、鹿島川の知名度は低いので、自然観察会を通じて、流域に広がる田園風景地や流域を生息地とする多様な生きものたちの営みを広く市民に知ってもらうとともに、印旛沼の担う重要な役割についての共通理解を深める。 千葉県自然観察指導員協議会の指導員による観察会 テーマ「印旛沼の水源・鹿島川の源流をたずねて」
⑥実施箇所		鹿島川流域
⑦実施日時		H22.10.9（土）開催（雨天順延）
⑧行動参加者		市民、NPO、行政
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法		モニタリング調査ではないが、当日観察された動植物を報告書で提出
⑩成功した点・改善できた点		
⑪なぜ成功、改善したのか（工夫した点など）		
⑫問題点・課題・改善できなかった点		
⑬ ⑫の問題点、課題を解決するために		
⑭今後、この行動をより発展させていくために		
⑮平成 21 年度の結果を踏まえた次年度の予定		

2) 船橋市

A) 戸建住宅への浸透桤設置促進

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名	船橋市	船橋市
②行動実施部課名	下水道部河川管理課	下水道部河川管理課
③実施行動名	戸建住宅への浸透桤設置促進	戸建住宅への浸透桤設置促進
④行動の目的		洪水被害を軽減させ、地下水、湧水の保全・回復を図る。
⑤【新規】位置づけた経緯 【昨年度から継続】 昨年度の問題点・課題に対する改善方法		昨年度から継続 雨水浸透桤設置促進のため補助金制度を設けているが、申請件数が伸び悩み傾向にあるため予算も縮減されている。今後は PR 方法等について検討の余地がある。広報紙への掲載回数増、町会等の排水施設寄付受け入れ時に啓蒙する
⑥実施箇所	市内の雨水浸透可能区域	市内の雨水浸透可能区域
⑦実施日時	通年	通年
⑧行動参加者	市民	市民
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法	設置基数 105 基（船橋市全域 241 基）	引き続き設置等の実績調査を行う。
⑩成功した点・改善できた点	設置基数は印旛沼流域に限ると昨年度の「205 基」に比べ「105 基」と減少しているが、船橋市全域での市への建築確認件数を基に評価すると、平成 20 年度が「228 件」の建築確認に対し、設置基数「146 基」で確認件数に対する設置基数の割合は 64.0%であるのに対し、21 年度は「145 件」の建築確認に対し、設置基数「131 基」で 90.3%の割合となっており、設置基数の割合は増加したことがうかがえる。	
⑪なぜ成功、改善したのか（工夫した点など）	船橋市広報紙へ浸透桤設置について複数回掲載したこと、また、ホームページ・窓口での啓蒙により周知できたことが設置基数割合の増加に繋がったと思われる。 また、民間建築確認検査機関へ周知依頼を行ったが、実施が 21 年 11 月末だったため、効果の有無は 22 年度以降になると予想される。	
⑫問題点・課題・改善できなかった点	建築確認に依るところが大きいので、確認件数が減ると設置件数にも影響が出る。	

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
⑬ ⑫の問題点、課題を解決するためにはどうしたらよいと考えているか	窓口での建築事前調査時に浸透ます設置促進について徹底する。 また、引き続き民間建築確認検査機関に周知依頼を行っていく。	
⑭ 今後、この行動をより発展させていくために考えていること・必要なこと	広報紙・ホームページ・窓口での設置協力依頼を徹底する。 また、引き続き民間建築確認検査機関に周知依頼を行っていく。 浸透枮設置事業補助金についての検討（見直し）を行っていく。	
⑮ 平成 21 年度の結果を踏まえた次年度の予定	市民への啓蒙活動については引き続き実施していく。 また、主な民間建築確認検査機関に文書にて依頼する等、周知依頼を行っていく。	

3) 成田市

A) 高度処理型合併処理浄化槽の導入

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名	成田市	成田市
②行動実施部課名	環境部環境衛生課	環境部環境衛生課
③実施行動名	高度処理型合併浄化槽の導入と普及	高度処理型合併浄化槽の導入と普及
④行動の目的		印旛沼流域内における高度処理型合併浄化槽の導入を促進させることにより、生活雑排水からの窒素及びリンの負荷を減少させる。
⑤【新規】市町村みためしとして位置づけた経緯 【昨年度から継続】昨年度の問題点・課題に対する改善方法		昨年度は高度処理型合併浄化槽の設置基数が予定を下回ってしまったため、今年度は広報紙やホームページでの PR、また、各種イベント時の普及・啓発活動等を強化することにより、汲取り便所及び単独浄化槽から高度処理型合併浄化槽への転換を更に推し進める。
⑥実施箇所	市内印旛沼流域内の下水道未整備地区	市内印旛沼流域内の下水道未整備地区
⑦実施日時		
⑧行動参加者	市民・行政・浄化槽設置業者	市民・行政・浄化槽設置業者
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法	今年度の予定設置基数 30 基 平成 21 年度実績 17 基 ①新設設置：9 基 5 人槽 6 基、7 人槽 1 基、 30 人槽 1 基、40 人槽 1 基 ②単独浄化槽からの転換：5 基 5 人槽 2 基、7 人槽 2 基、10 人槽 1 基 ③汲取り便所からの転換：3 基 5 人槽 3 基	設置基数（予定基数 16 基）
⑩成功した点・改善できた点	特になし	
⑪なぜ成功、改善したのか（工夫した点など）		
⑫問題点・課題・改善できなかった点	想定よりも建築戸数が少なく、高度処理型合併浄化槽の設置基数が予定を下回った。	
⑬ ⑫の問題点、課題を解決するために	汲取り便所及び単独浄化槽から高度処理型合併浄化槽への転換を促進するための PR をさらに推し進める。	

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
⑭今後、この行動をより発展させていくために	印旛沼の更なる水質の向上を図っていくためには、現在の窒素除去型高度処理浄化槽よりも、窒素＋リンを除去できる高度処理型浄化槽の普及を促進する必要がある（ただし、窒素除去型に比べかなりの高額となるため、補助限度額の検討等が必要。印西市では市独自で上乗せ金を設け、飛躍的に設置数を増加させた事例があるので参考になると思われる）。	
⑮平成 21 年度の結果を踏まえた次年度の予定	まずは汲取り便所及び単独浄化槽から高度処理型合併浄化槽への転換促進の強化を図りたい。	

4) 佐倉市

A) 補助制度を活用した雨水貯留浸透施設の整備

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名	佐倉市	
②行動実施部課名	土木部下水道課	
③実施行動名	補助制度を活用した雨水貯留浸透施設の整備	
④行動の目的		
⑤【新規】位置づけた経緯 【昨年度から継続】昨年度の問題点・課題に対する改善方法		
⑥実施箇所	市内	
⑦実施日時	通年	
⑧行動参加者	市民、行政	
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法	貯留施設（申請件数 16 件）、浸透施設（申請件数 0 件） 200L：6 基、227L：9 基、300L：1 基	
⑩成功した点・改善できた点	特になし	
⑪なぜ成功、改善したのか（工夫した点など）	特になし	
⑫問題点・課題・改善できなかった点	貯留タンクは、散水などに利用することで節水効果など、設置者にメリットがあり、現状の制度を継続し周知を図ることで、着実に設置基数は増えていく。しかし、浸透枳については、設置者にメリットがない、ということで、普及が難しく、このままでは設置基数の増加（特に既存住宅）は、望めない状況である。	
⑬ ⑫の問題点、課題を解決するために	補助制度が活用されない状況ではあるが、新築時の設置基数は増加傾向にあると思われる。既存の住宅地への普及については、行政設置の取り組みが必要ではないかと思われる。	
⑭今後、この行動をより発展させていくために	特になし	
⑮平成 21 年度の結果を踏まえた次年度の予定	補助制度を継続し、啓発活動に努める。	

B) 加賀清水湧水

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名		佐倉市
②行動実施部課名		経済環境部 環境保全課
③実施行動名		加賀清水湧水
④行動の目的		昨年度、住民と協働した湧水箇所整備をおこない、その後の継続を図る。
⑤【新規】位置づけた経緯 【昨年度から継続】昨年度の問題点・課題に対する改善方法		湧水箇所の整備を行っているが、その後の清掃や修繕が必要。 『池の浚渫』について、公園緑地課では、池全体の堆積状況を確認しながら、実施することとしている。
⑥実施箇所		加賀清水公園（1 箇所）
⑦実施日時		7 月～3 月
⑧行動参加者		住民、行政、その他関係者
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法		湧水口への土砂及び枯れ葉等の堆積状況の把握。
⑩成功した点・改善できた点		
⑪なぜ成功、改善したのか（工夫した点など）		
⑫問題点・課題・改善できなかった点		
⑬ ⑫の問題点、課題を解決するために		
⑭今後、この行動をより発展させていくために		
⑮平成 21 年度の結果を踏まえた次年度の予定		

5) 八千代市

A) やちよの川をきれいにしよう！

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名	八千代市	八千代市
②行動実施部課名	土木建設課、環境保全課	環境保全課
③実施行動名	やちよの川をきれいにしよう！	やちよの川をきれいにしよう！
④行動の目的		八千代市内においては、工業団地を含む印旛沼流域を中心に、下水道整備区域外の地域がある。これらの下水道整備区域外の世帯や下水道区域内でも下水道未接続世帯では、排水は各戸で浄化し、近くの河川へ排出している。そのため、河川の水質浄化にはその河川流域で活動・生活する企業と市民の協力が必要である。地域の河川に愛着を持ってもらうこと、知ってもらうことを目的として、河川に直接関わることや水辺に親しんでもらえる活動として、川の中のゴミ拾いや水生生物調査を主体とした行動を考えている。
⑤【新規】位置づけた経緯 【昨年度から継続】昨年度の問題点・課題に対する改善方法		昨年度までの 3 年間は、同じ場所において、内容を変え、実施してきた。そのため、その河川流域にある工場の方にはこの活動が定着してきた。さらに活動の輪を広めていくことを目的に、今年度は異なる場所での実施を検討する。
⑥実施箇所	高野川	未定
⑦実施日時	平成 21 年 10 月 14 日（水） 9：15～11：45	平成 22 年 10 月ごろ
⑧行動参加者	80 名 内訳：講師 1 名、市関係者 20 名（クリーン推進課、維持管理課、環境保全課、土木建設課）、工場関係者 34 名（19 社）、一般・団体 23 名、千葉県 2 名	市関係課 上高野地区工場関係者 上高野・下高野地区農家及び住民 環境団体
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法	集まったゴミの量：445kg 内 訳）可燃ゴミ 210kg、不燃ゴミ 90kg、粗大ゴミ 140kg、資源ゴミ 5kg	集まったゴミの量 アンケート
⑩成功した点・改善できた点	八千代市の他課にも参加を呼び掛けたところ、市関係者の参加者が増えた。昨年度と異なる会社の参加もあった。	

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
⑪なぜ成功、改善したのか（工夫した点など）	八千代市の関係部署にも呼びかけたため、市関係者の参加者が増えた。 昨年度までの 3 年間、高野川で実施したため、高野川流域の事業所に個別に呼び掛けた。そのため、上高野地区の事業所の中で、当該行動が浸透してきているものと思われる。	
⑫問題点・課題・改善できなかった点	近隣住民の参加が少ない。 アンケートの回収率が低い。（約 5%（3 人/59 人）） なお、アンケートは、その場で回収または FAX にて回収した。	
⑬ ⑫の問題点、課題を解決するために	市民団体や関係機関、参加者等から様々な意見やアイデアを聞いていくことが必要と考える。 アンケートについては、行動実施後、すぐに回収できる方法を考えたい。	
⑭今後、この行動をより発展させていくために	市民団体や関係機関、参加者等から様々な意見やアイデアを聞いていくことが必要と考える。	
⑮平成 21 年度の結果を踏まえた次年度の予定		

6) 鎌ケ谷市

A) 印旛沼流入河川の水質調査

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名	鎌ケ谷市	鎌ケ谷市
②行動実施部課名	市民生活部環境課	環境課
③実施行動名	印旛沼流入河川の水質調査	印旛沼流入河川の水質調査
④行動の目的		印旛沼流入河川の井草水路の水質調査をする。水質の把握に努め水質の向上の為に生活排水を浄化する。
⑤【新規】位置づけた経緯 【昨年度から継続】昨年度の問題点・課題に対する改善方法		鎌ケ谷市も印旛沼に流入する河川の上流部だと認識し、河川の浄化に関心をもつ。水路の近隣の団地の自治会にも参加を呼びかけたい。広報活動を広めたい。
⑥実施箇所	井草水路最東端(県営住宅進入路際)	井草水路最東端(県営住宅進入路際)
⑦実施日時	平成 22 年 1 月 19 日	平成 23 年 1 月
⑧行動参加者	行政、かわ・水・みどり、二重川に親しむ会 計 4 名	行政、かわ・水・みどり、二重川に親しむ会
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法	井草水路の際下流部の水質を調査した。調査地点を流量が豊富な現地点にした。今までの調査地点の水質よりはるかに水質が向上した。今までの調査地点は適当ではなかった。	市で実施する公共用水域水質調査地点に参加者が集合し、水質調査に参加して、水質の監視をする。水質調査の結果を広報する。
⑩成功した点・改善できた点	印旛沼流入河川である井草水路の鎌ケ谷市最下流部の水質の状況を把握できた。	
⑪なぜ成功、改善したのか（工夫した点など）	水質の浄化を受けて、水質向上の PR が浸透した。	
⑫問題点・課題・改善できなかった点	市民との協働がまだうまくいっていない。	
⑬ ⑫の問題点、課題を解決するために	市民団体に広く呼びかける。	
⑭今後、この行動をより発展させていくために	河川の水質汚濁を防止するために、PR に努める。	
⑮平成 21 年度の結果を踏まえた次年度の予定	流域の清掃活動をリンクさせて、自治会にも清掃活動の協働を呼びかける。	

7) 四街道市

A) 印旛沼流入河川清掃

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名	四街道市	四街道市
②行動実施部課名	環境経済部環境政策課	環境経済部環境政策課
③実施行動名	印旛沼流入河川清掃	印旛沼流入河川清掃
④行動の目的		河川清掃活動を通じ、「印旛沼の現状と浄化について」および「四街道市の不法投棄の状況」を実感してもらう。
⑤【新規】位置づけた経緯 【昨年度から継続】昨年度の問題点・課題に対する改善方法		実施日の選定において、市民団体と早期に日程調整を行い、より多くの団体の参加を頂きやすくするとともに、地元自治会を中心に市民の方々の参加をお願いする。
⑥実施箇所	同右	手繰川及び周辺道路
⑦実施日時	H21 年 10 月 30 日(金)	平成 22 年 10 月中旬（調整結果による）
⑧行動参加者	34 名	市民（個人）・市民団体及び市職員
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法	参加者数：職員 16 名、市民 18 名（計 34 名） 河川景観：河川景観については、これまでの清掃活動やボランティア団体の清掃活動、市による草刈作業などとともに、自然型護岸であることから、良好な田園風景を醸しだしている	参加人数 河川の景観
⑩成功した点・改善できた点	当行動に対し、市民団体の方々のご理解により、継続的な参加が頂けた。	
⑪なぜ成功、改善したのか（工夫した点など）	市民団体の熱心な協力体制に支えられた。 市広報誌に掲載及び、市民団体には事前に実施日等のお話はしていますが、毎年、団体の方々には自主的な参加を頂いております。	
⑫問題点・課題・改善できなかった点	早期の事前日程調整ができずに、参加できない市民団体があつた。	
⑬ ⑫の問題点、課題を解決するために	当清掃活動に賛同して頂いている団体の方々と、余裕をもって活動実施日等の調整を行う。	
⑭今後、この行動をより発展させていくため	現在の河川清掃活動を継続し、市民団体とともに一般市民（個人）に至る参加者が多く得られるようにする。	
⑮平成21年度の結果を踏まえた次年度の予定	今後とも、市民団体の協力を頂くとともに、一般市民（個人）の参加を図りながら河川清掃活動を継続する。	

8) 八街市

A) 流域河川（鹿島川・高崎川）の清掃

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名	八街市	八街市
②行動実施部課名	経済環境部環境課	経済環境部環境課
③実施行動名	流域河川（鹿島川・高崎川）の清掃	流域河川（鹿島川、高崎川）の清掃
④行動の目的		八街市は、印旛沼の最上流部に位置することから、水質浄化の必要性を幅広く市民に理解してもらうため、実際に河川と触れ合いながら清掃などの体験をする。
⑤【新規】位置づけた経緯 【昨年度から継続】 昨年度の問題点・課題に対する改善方法		昨年は、市職員・NPO 団体の参加しかなく、一般市民の参加を PR する。
⑥実施箇所	鹿島川上流	鹿島川、高崎川
⑦実施日時	10 月 27 日	10 月～11 月
⑧行動参加者	12 名（市民、NPO、市職員）	市職員、NPO 団体、一般市民
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法	清掃ゴミ 10kg	市民からの要望による環境学習 回収ごみ量の把握
⑩成功した点・改善できた点	なし	
⑪なぜ成功、改善したのか（工夫した点など）	なし	
⑫問題点・課題・改善できなかった点	参加する NPO 団体と日時の調整をしたが、なかなか日時が決定できなかった。	
⑬ ⑫の問題点、課題を解決するために	早めに日程を決定する。	
⑭今後、この行動をより発展させていくために	広報等の掲載による啓発。	
⑮平成 21 年度の結果を踏まえた次年度の予定	引き続き同様に行う。	

B) 高度処理型合併浄化槽の推進

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名	八街市	八街市
②行動実施部課名	経済環境部環境課	経済環境部環境課
③実施行動名	高度処理型合併浄化槽の設置の推進	高度処理型合併浄化槽の推進
④行動の目的		高度処理型合併浄化槽の設置の推進
⑤【新規】位置づけた経緯 【昨年度から継続】 昨年度の問題点・課題に対する改善方法		新規設置の浄化槽について、補助対象を高度処理型合併浄化槽とする。 予算減となり設置基数に影響が出た。
⑥実施箇所	市内下水道区域外	市内下水道区域外
⑦実施日時	4 月 1 日～翌年 3 月 31 日	4 月 1 日～翌年 3 月 31 日
⑧行動参加者	下水道区域外で市内に在住の持ち家の方	市内に在住の持家
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法	H21 設置基数 87 基 H20 設置基数 59 基	設置基数 57 基
⑩成功した点・改善できた点	新規、転換などの基数が増加した。	
⑪なぜ成功、改善したのか（工夫した点など）	本年度より、新規補助対象を高度処理型合併浄化槽とした。 また、汲み取り転換を加えた。	
⑫問題点・課題・改善できなかった点	申請件数に対し、予算枠が足りなかった ので、今後も設置基数を増加させていく。 （問い合わせ件数約 100 件に対し、実績 87 件）	
⑬ ⑫の問題点、課題を解決するために	予算枠を増やし、現在の転換補助を促す。	
⑭今後、この行動をより発展させていくために	広報等の掲載による啓発。	
⑮平成 21 年度の結果を踏まえた次年度の予定	予算枠の増加。	

9) 印西市

A) 高度処理型合併浄化槽の導入

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名	印西市	印西市
②行動実施部課名	市民経済部生活環境課	環境経済部環境保全課
③実施行動名	高度処理型合併浄化槽の導入	高度処理型合併浄化槽の導入
④行動の目的		高度処理型合併処理浄化槽の普及が促進されることにより、生活雑排水による公共用水域の水質汚濁防止及び公衆衛生の向上が図られ、生活環境が改善される。また、維持管理を適正に行うことで、設置後も継続して、放流水質の基準（透明度 20cm 以上、COD20mg/L 以下）を満たすことを目的とする。
⑤【新規】位置づけた経緯 【昨年度から継続】昨年度の問題点・課題に対する改善方法		【問題点】 設置基数は増加したが、依然として新規設置のほうが多く、単独転換や汲取り転換があまり進んでいない。 【改善方法】 広報及びホームページ等で高度処理型合併処理浄化槽の設置を推進していく。浄化槽設置後の完成検査時に法定検査のチラシを配布。口頭での説明により、検査及び維持管理を確実に実施し、放流水質の基準を満たすよう指導する。設置後、5 年を経過した家庭について、COD 及び透明度の調査を行い、結果を通知することで放流水質について意識するよう促す。
⑥実施箇所	市内全域下水道未整備地区	市内全域下水道未整備地区
⑦実施日時	21 年度	22 年度
⑧行動参加者	市民、行政	市民、行政
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法	設置基数：27 基 事業費：17.414 千円 内訳 5 人槽：19 基（うち転換 2 基） 7 人槽：8 基（うち転換 1 基） 蒸発散装置：5 基	設置基数、補助金申請件数

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
⑩成功した点・改善できた点	前年度と比較して設置基数が増加している。（20 年度設置基数 10 基、転換補助 0 基。転換補助も増加。） 浄化槽設置後、5 年経過した家庭について COD 及び透明度の調査を実施しているが、放流水質の基準値（透明度 20cm 以上、COD20mg/L 以下）を満たしている家庭が増加している。	
⑪なぜ成功、改善したのか（工夫した点など）	広報、ホームページ等による啓発活動や浄化槽設置後に行う完成検査時にチラシを配布し、法定検査及び浄化槽の維持管理を確実に実施し、放流水質の基準を満たすよう指導している結果であると思われる。	
⑫問題点・課題・改善できなかった点	転換補助も増加しているが、それほどの伸びではない。 浄化槽設置後、5 年経過した家庭の放流水質の基準を満たしていない家庭を減少していきたい。	
⑬ ⑫の問題点、課題を解決するために	合併処理浄化槽未設置者に対し、広報・ホームページ等によりさらなる啓発活動を行っていく。 浄化槽の設置者に対しては、引き続き調査を行い、法定検査及び浄化槽の維持管理を確実に実施し、放流水質の基準を満たすよう指導していく。	
⑭今後、この行動をより発展させていくために	生活雑排水による公共用水域の水質汚濁防止及び公衆衛生の向上を図るため、合併処理浄化槽の設置者に補助金を交付し、更なる普及を促進する。	
⑮平成 21 年度の結果を踏まえた次年度の予定	次年度以降も継続して実施していく。	

10) 印旛村（現 印西市）

A) EM 活性液の配布

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名	印旛村	
②行動実施部課名	環境課	
③実施行動名	EM 活性液の配布	
④行動の目的		
⑤【新規】位置づけた経緯 【昨年度から継続】 昨年度の問題点・課題に対する改善方法		
⑥実施箇所	村内全域	
⑦実施日時	通年（2 回／月）	
⑧行動参加者	住民	
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法	配布回数：22 回 配布延べ人数：1.182 人	
⑩成功した点・改善できた点		
⑪なぜ成功、改善したのか（工夫した点など）		
⑫問題点・課題・改善できなかった点	配布回数が減少したことに伴い、配布延べ人数も少なくなった。	
⑬ ⑫の問題点、課題を解決するために	EM 活性液を利用している方からの使用効果等を把握し、その結果を周知していく。	
⑭今後、この行動をより発展させていくために	EM 活性液を利用している方たちの協力を得て、広域的に普及していきたい。	
⑮平成 21 年度の結果を踏まえた次年度の予定	今まで行政で配布していたものを村内の有志団体に移行し、継続して配布を行っていく。	

B) 印旛沼流入河川水質調査

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名	印旛村	
②行動実施部課名	環境課	
③実施行動名	印旛沼流入河川水質調査	
④行動の目的		
⑤【新規】位置づけた経緯 【昨年度から継続】昨年度の問題点・課題に対する改善方法		
⑥実施箇所	印旛沼へ流入する河川等より 7 箇所を抽出	
⑦実施日時	第 1 回目採水日・・・平成 21 年 7 月 1 日 第 2 回目採水日・・・平成 21 年 11 月 9 日 第 3 回目採水日・・・平成 22 年 2 月 9 日	
⑧行動参加者	行政	
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法	調査地点 7 箇所から採水した水の分析結果としては、BOD の最高値が 5.2mg/L、最低値が 0.5mg/L 以下、COD の最高値が 17.0mg/L、最低値が 2.2mg/L、全窒素の最高値が 3.6mg/L、最低値が 1.0mg/L、全磷の最高値が 0.18mg/L、最低値が 0.01mg/L という結果であった。	
⑩成功した点・改善できた点	特になし。	
⑪なぜ成功、改善したのか（工夫した点など）	特になし。	
⑫問題点・課題・改善できなかった点	現在の採水回数が年 3 回ということで、色々な時期や状況での水質分析がされていない。回数を増やすことによって、より有効なデータが得られれば良いと思う。	
⑬ ⑫の問題点、課題を解決するために	印旛沼の水質汚濁という問題を更なる重点課題とし、水質向上へ向けた取り組みとして実施していく。	
⑭今後、この行動をより発展させていくために	採水地点を増やし、もっと広い範囲のデータを収集することによって印旛沼へ流入している公共用水域の状況を把握していければよいと思う。	
⑮平成 21 年度の結果を踏まえた次年度の予定	公共用水域の状況を把握するために継続して実施していく。	

11) 本埜村（現 印西市）

A)高度処理型合併浄化槽の導入

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名	本埜村	
②行動実施部課名	経済建設課	
③実施行動名	高度処理型合併浄化槽の導入	
④行動の目的		
⑤【新規】位置づけた経緯 【昨年度から継続】昨年度の問題点・課題に対する改善方法		
⑥実施箇所	村内全域（下水道認可区域を除く）	
⑦実施日時	21 年度	
⑧行動参加者	村民及び行政	
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法	平成 21 年度申請基数 高度処理型 11 基 単独浄化槽からの転換 6 基 汲取り便槽からの転換 1 基	
⑩成功した点・改善できた点	平成 21 年度より高度処理型合併浄化槽のみを補助対象としたが、前年度と同じくらいの申請基数があった。	
⑪なぜ成功、改善したのか（工夫した点など）	広報、ホームページ等での啓発活動によるものと思われる。	
⑫問題点・課題・改善できなかった点	平成 20 年度より汲取り便槽からの転換を導入したが、単独浄化槽からの転換も汲取り便槽からの転換も思ったより伸びなかった。	
⑬ ⑫の問題点、課題を解決するために	家庭から排出される生活雑排水が、印旛沼の水質汚濁の要因のひとつであることを認識してもらう。 単独浄化槽や汲取り便槽から合併浄化槽へ取り換える場合には、転換補助が出ることを啓発していきたい。	
⑭今後、この行動をより発展させていくために	広報、ホームページ等で啓発活動を行っていくとともに、合併処理浄化槽の普及を促進していく。	
⑮平成 21 年度の結果を踏まえた次年度の予定	継続して補助金を交付していく。	

12) 白井市

A) 廃食油の回収

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名	白井市	白井市
②行動実施部課名	環境建設部環境課	環境建設部環境課
③実施行動名	廃食油の回収	廃食油の回収
④行動の目的	使用済み廃食油を回収することにより、 廃食油による河川等の水質汚濁の抑制を 図る。	使用済み廃食油を回収することにより、 廃食油による河川等の水質汚濁の抑制を 図る。
⑤【新規】位置づけ た経緯 【昨年度から継続】 昨年度の問題点・課 題に対する改善方法		広報紙・ホームページの啓発回数を多く 記載する。
⑥実施箇所	市内全域 ※回収場所：白井駅前センター外 9 箇所	市内全域 ※回収場所：白井駅前センター外 9 箇所
⑦実施日時	随時	随時
⑧行動参加者	市民・行政	市民・行政
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法	廃食油回収については、広報やホームペ ージなどで周知するとともに、市内 10 箇 所の回収場所に廃食油を回収する場所を 設け、定期的に回収し、業者引渡しの際 に計量している。 H21.3 月末回収量 1,660.5L	回収場所に廃食油回収バケツを置き、定 期的に回収した際に計量する。
⑩成功した点・改善 できた点	前年度同月に比べ回収量が微増した。 H20.12 末→1,005.75L H21.12 末→1,296L	
⑪なぜ成功、改善し たのか（工夫した点 など）	特になし	
⑫問題点・課題・改 善できなかった点	みためし行動する前の年（H17 年間 1,715L）に比べて回収量が落ちている。	
⑬ ⑫の問題点、課 題を解決するために	沼の現状と生活排水対策の必要性のさら なる周知。	
⑭今後、この行動を より発展させていく ために	市民や市民団体などの協力体制。	
⑮平成 21 年度の結果 を踏まえた次年予定	廃食油回収は継続	

13) 富里市

A) 高度処理型合併浄化槽の導入

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名	富里市	富里市
②行動実施部課名	経済環境部環境課	経済環境部環境課
③実施行動名	高度処理型合併浄化槽の導入	高度処理型合併浄化槽の導入
④行動の目的		市内における高度処理型合併処理浄化槽の設置を促進し、河川等の水質改善に努める。
⑤【新規】位置づけた経緯 【昨年度から継続】昨年度の問題点・課題に対する改善方法		補助金制度の周知に努め、同様に継続していく。 種類・人槽の枠に関係なく、予算の枠の範囲内で補助を行う。
⑥実施箇所	市内全域（下水道許可区域を除く）	市内全域（下水道認可区域を除く）
⑦実施日時	通年実施	通年実施
⑧行動参加者	市民・行政	市民・行政
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法	設置基数は補助金申請数により把握 新規設置 5人槽：7基 6～7人槽：2基 単独浄化槽からの転換 5人槽：17基 6～7人槽：4基 汲み取りからの転換 5人槽：5基 6～7人槽：0基	設置基数（補助金申請数により把握）
⑩成功した点・改善できた点	平成 20 年度半ばまで、浄化槽の種類・人槽で枠を設けて受付をしていたが、種類・人槽により申請の偏りがあるため、浄化槽補助金の予算の範囲内で種類・人槽に関係なく申請受付をし、効率的な補助が行えた。	
⑪なぜ成功、改善したのか（工夫した点など）	浄化槽の種類・人槽によって、すぐに申請がいっぱいになってしまうものと、最後まで残ってしまうものがあったため、予算の範囲内での申請受付に変更し、補助効果を高めることにより、浄化槽の普及促進が図られた。	
⑫問題点・課題・改善できなかった点	予算枠が足りない。	
⑬ ⑫の問題点、課題を解決するために	予算増の要求をしていく。	
⑭今後、この行動をより発展させていくために	今後も補助金制度の広報活動を積極的に行い、高度処理型浄化槽の設置を促進していく。	引き続き、広報等で制度の周知に努めるほか、補助金確保に努め事業の継続を図る。
⑮平成 21 年度の結果を踏まえた次年度の予定	同様に継続していく	

14) 酒々井町

A) 印旛沼中央排水路周辺一斉清掃

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名	酒々井町	酒々井町
②行動実施部課名	生活環境課	生活環境課
③実施行動名	印旛沼中央排水路周辺一斉清掃	印旛沼中央排水路周辺一斉清掃
④行動の目的		清掃活動を行うことにより、印旛沼の浄化を促進する。 参加児童に不法投棄の現状を見せ、ごみの分別収集を促すことにより、環境への意識向上を得る。
⑤【新規】位置づけた経緯 【昨年度から継続】昨年度の問題点・課題に対する改善方法		酒々井町婦人会の各種事業の中で、「印旛沼をきれいにする会」を昭和 40 年頃に発足し、清掃活動が続けている。 また、平成 13 年から酒々井小学校が環境学習の一環として 4 年生児童を対象に授業の中で清掃活動を実施していることから、それぞれの活動に町が協働で推進することとし、みためし計画と位置づける。 今年度も、同内容で継続実施。
⑥実施箇所	印旛沼中央排水路（中平橋）周辺	印旛沼中央排水路（中平橋）周辺
⑦実施日時	10 月 30 日（金）	10 月中旬
⑧行動参加者	住民等：印旛沼をきれいにする会 （酒々井町婦人会）13 人 酒々井小学校 4 年生児童及び 教職員 88 人 行 政：町職員 2 人	印旛沼をきれいにする会（酒々井町婦人会） 酒々井小学校児童及び教職員 酒々井町職員
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法	参加者総人数 103 人で、280 kg のごみを回収した。 実施結果については、広報にて公表した。	回収した不法投棄物の重量、種類等の公表
⑩成功した点・改善できた点	小学生にごみの不法投棄の現状を把握させ、分別収集方式にて、不法投棄を撤去させることにより、印旛沼浄化等の意識向上が図られた。 婦人会員と小学生との共同作業により、世代間交流も図られた。	
⑪なぜ成功、改善したのか（工夫した点など）	例年どおりの実施内容となった。 酒々井小学校 4 年生の総合学習で環境学習の一環となる授業として清掃活動が行われた。 不法投棄物をあえて、分別収集方式にて収集させることにより、不法投棄物の内容を把握することができ、ごみ分別の重要性等の周知させることができた。	

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
⑫問題点・課題・改善できなかった点		
⑬ ⑫の問題点、課題を解決するために		
⑭今後、この行動をより発展させていくために	この活動の趣旨に賛同する他の団体との連携をめざし、区域の拡大や回数の検討に努めたい。	
⑮平成 21 年度の結果を踏まえた次年度の予定	同内容にて継続 ボランティア団体等で別の時期に中央排水路周辺で地域清掃活動を行っている団体に日程等の調整を行い、同時期に実施することにより、活動地域の拡大ができるよう検討をする。	

15) 栄町

A) 水辺のクリーン作戦

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
①市町村名	栄町	栄町
②行動実施部課名	環境課	環境課
③実施行動名	水辺のクリーン作戦	水辺のクリーン作戦
④行動の目的		印旛沼の浄化及び周辺の美化を図るため、清掃活動を実施する事により、意識啓発を目的とする。 この事業は、印旛沼の浄化と美化を図るため、栄町ライオンズクラブが主催し、町・関係団体の後援・協力を得て印旛沼浄化推進運動に併せて実施しているものである。
⑤【新規】位置づけた経緯 【昨年度から継続】 昨年度の問題点・課題に対する改善方法		栄町は、利根川、長門川、印旛沼に囲まれ、古くからこれらの水を利用することで生計を維持して来た。 現在も水道水は長門川から採水しているため、水質の浄化は町にとって大きな課題となっている。 長門川の水質は印旛沼の影響を強く受けるため、水を守と言う観点から一つ一つの印旛沼浄化の取り組みが大きな意義を持ち、その積み重ねが重要になって来る。 そこで、印旛沼の浄化を促進するため、栄町ライオンズクラブ（平成 8 年 10 月発足）が中心となり、他団体と協力しながら行政の支援を受けることなく、平成 9 年度から「水辺のクリーン作戦」と称し長門川酒直機場周辺等のゴミ拾いを 2 年間実施した。 そして平成 11 年度から行政と連携しライオンズクラブが主催となって他団体と協力しながら継続実施しているものである。
⑥実施箇所	長門川酒直機場周辺	長門川酒直機場周辺
⑦実施日時	10 月 17 日（土）	10 月上旬
⑧行動参加者	90 名	栄町ライオンズクラブ・関係団体・一般参加者
⑨モニタリング 【H21】結果 【H22】方法	散乱ゴミの回収 320kg（可燃・粗大ゴミ等）	参加者数及び収集ゴミ量の把握
⑩成功した点・改善できた点	平成 8 年より通年に渡り実施してきた結果、少しずつではあるが印旛沼の水質浄化に繋がっている。	

項目	2009（平成 21）年度結果	2010（平成 22）年度予定
⑪なぜ成功、改善したのか（工夫した点など）	長年にわたり関係団体等と行政が一丸となって実施して来た結果、この水質浄化運動が定着して来たため。	
⑫問題点・課題・改善できなかった点	参加者の増員	
⑬ ⑫の問題点、課題を解決するために	広報活動に努める。	
⑭今後、この行動をより発展させていくために	栄町は、利根川、長門川、印旛沼に囲まれ、古くからこれらの水を利用することで生計を維持して来た。 現在も水道水は長門川から採水しているため、水質の浄化は町にとって大きな課題となっている。 長門川の水質は印旛沼の影響を強く受けるため、水を守と言う観点から一つ一つの印旛沼浄化の取り組みが大きな意義を持ち、その積み重ねが重要になって来ますので、今後とも継続実施していくとともに、今まで以上に多くの町民に参加していただけるよう、広報活動に努めて行く。	
⑮平成 21 年度の結果を踏まえた次年度の予定	「水辺のクリーン作戦」を継続実施 広報誌等による参加募集 関係団体への参加依頼 児童、生徒の参加募集	